

昭和五十年六月招集

第二回館山市議定会定例会会議録第二号

館山市議 会

目次

日時	場所	出席議員	欠席議員	出席説明員	出席事務局職員	議事日程	開議	行政一般通告質問	渡辺軍治郎君の質問、当局の応答	安西 益男君の質問、当局の応答	石井 武敏君の質問、当局の応答	栗原 一雄君の質問、当局の応答	石井 輝久君の質問、当局の応答	辻田 実君の質問、当局の応答	散会	本日の会議に付した事件
一	一	一	一	一	一	一	二	二	二	一	二〇	二八	三五	四八	六一	六一

一、昭和五十年七月三日（木曜日）午前十時

二、館山市役所議場

一、出席議員 三十名

一番	吉田 勇治郎	二番	伊藤 幸太郎
三番	穴戸 寿夫	四番	押元 稔
五番	黒川 平治	六番	鈴木 正義
七番	本間 昭二	八番	松下 正己
九番	鈴木 稔	〇番	流山 源次郎
一番	近藤 好雄	二番	栗原 一雄
三番	林 豊	四番	石井 輝久
五番	辻田 実	六番	安西 益男
七番	石井 武敏	八番	渡辺 軍治郎
九番	渡辺 昭夫	二〇番	和田 一郎
二一番	田中 禄郎	二二番	五十嵐 昇
二三番	菊井 敏博	二四番	西村 真次
二五番	伊賀 多朗	二六番	藤田 益治
二七番	遠山 ヨネ子	二八番	石井 正
二九番	望月 照正	三〇番	山口 康

一、欠席議員 なし

一、出席説明員

第一日目に同じ

一、出席事務局職員

第一日目に同じ

一、議事日程（第二号）

昭和五十年七月三日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開 議 午前十時五分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十八名、これより第二回市議会定例会第二日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

行政一般通告質問

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、通告による行政一般質問を行ないます。

締め切り日の六月二十八日正午までに提出のありました議員、要旨並びにその順序はお手もとに配付のとおりであります。これより順次質問を行ないます。

なお、この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり他に関連質問等の発言もあるうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。一八番議員渡辺軍治郎君登壇願います。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）（拍手）

〇一八番（渡辺軍治郎君） 私は、次の三点について質問したいと思ひます。

第一は、高過ぎる保育料を引き下げる問題、第二は中央排水路

の上を歩道として利用する問題、第三は赤字財政のもとで市長の施政方針を実現する政治姿勢の問題であります。

まず、保育料の引き下げについてですが、厚生省の保育料基準単価が毎年値上げされ、五十年代は市が一〇%の助成をしましたが、三歳未満の最高は二万七千円から二万八千円と高額のものでインフレ、不況下の家庭を圧迫しています。また、一世帯から二人以上の児童が入所する場合、D2階層以上は半額の割り引きがないためにさらに大きな負担になっています。

千葉市では四十九年度まで最高一万百円であったものが二万一千円に値上げされたことで、保護者は福祉審査請求を起こして大問題になっています。鴨川市では最高一万円であったものが一万五千円で、館山市より一万二千円も安い保育料になっています。

市長は、福祉の充実を重点施策としていますが、保育料を大幅に引き下げてもらいたいという市民の要望にどうかえられるか。お聞きしたいと思います。

次に、第二の中央排水路の上を歩道に利用する問題であります。最近、中央排水路の流れを妨げていた歩道橋のかけかえが行なわれ、近く排水路のしゅんせつもすることになっていますが、朝日湯からアタックに至る排水路の上は館山木工、江田材木店等の材料置場に占用され、排水路しゅんせつの妨げになっています。

また、排水路にそった道路は道幅が狭いのに自動車の乗り入れが多く、三人の子供と老婦が排水路に落ちて負傷するという事故も起こっています。このような事故を防止し、排水路の流れを確保するために排水路の上を板でふたをし、歩道として利用する必要があると思いますがどうか、お伺いします。

第三は、赤字財政のもとでの施政方針に対する市長の政治姿勢についてですが、時間の制約がありますので、最近市長から提起されている問題について質問したいと思います。

市財政は四十九年度三億五百万円の赤字決済となり、五十年予算で繰り上げ充用をする始末になりましたが、これは地方自治法で売り払いを禁止されている行政財産を予算収入に組み込んだ当然の帰結であって市当局の責任を問われるものです。

また、今日の地方財政の危機は全国的な問題で、その原因は自民党政府の資本の高度蓄積によって引き起こされた政策的のもので、その責任は自民党政府にあります。したがって、地方財政危機の解決は自民党政府の施策に求めるのが当然であります。

ところが、自治省事務次官通達は、地方自治体に対して人件費の増加の抑制に最大限の努力を傾注すること、使用料、手数料の引き上げ、地方公営企業の料金値上げをはかるよう格段の努力を要求しています。全く本末転倒といわざるを得ません。

このような状況の中で、市長は汲み取り手数料、水道料金等一連の公共料金的大幅な値上げをしようとしています。これはインフレ、不況の中で苦しんでいる市民生活を一そう圧迫するばかりでなく、物価つり上げの引き金になることは必定です。

そこで、市長に次の点について質問します。

第一点は、市長は施政方針で市民生活を市政の根本理念とする福祉の充実を重点政策に掲げていますが、一連の公共料金的大幅値上げと矛盾していると思えますが、どう理解してよいのか。お伺いします。

第二点は、市長は公共料金の値上げについて、企業の独立採算

制を主張していますが、公営企業の公益性、公共の福祉との関係をどのように考えているのか。お伺いします。

第三点は、汲み取り料金の問題については、議案の審議の際、質問したいと思いますが、市長の発言の中でごみの手数料も取ったほうがよいといっていますが、市の手数料条例をどのように理解しているのか。お伺いします。

第四点は、水道料金の値上げについて、水道審議会、文教民生委員会に提案されましたが、市長は九月議会に提案するといっておりますので、問題点について質問します。

水道法第十五条には「水道事業者は、当該水道により給水を受ける者に対し、常時水を供給しなければならない。」と規定し、また水道法第五条の六では「配水施設は、必要量の浄水を一定以上の圧力で連続して供給するのに必要な配水池、ポンプ、配水管その他の設備を有すること。」と規定していますが、市の水道はこれに適合しているかどうか。お伺いします。

次に、水道法十四条の四の一には「料金が、能率的な経営のもとにおける適正な原価に照らし公正妥当なものであること。」とありますが、有収水量が確実に把握できる状態になっているのかどうか。また給水原価と給水料金の関係をどうみているのか。

最後に、三芳水道企業団には一般会計から三千九百九十万円を負担金として助成しているが、市水道に助成できない理由は何か、以上をお伺いいたします。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 渡辺議員の御質問に御答弁申し上げます。保育料の引き下げの件でございますが、保育園の保育料につき

ましては従来より国の徴収基準額を適用して実施してきたのでございすけれども、本年四月から市独自に公私立保育措置費徴収規則を制定いたしましたして、平均して約一四%の保育料減額措置を行ない、父兄負担の軽減をはかつてきたところでございす。

児童福祉法の規定に基づく利用者負担は、これは当然でございすますが、今後も負担軽減について財政事情等も勘案いたしまして検討いたしてまいりたいと考えております。

次に、六軒町通りの歩道橋の問題でございすけれども、交通安全や環境衛生の面からはまことにけつこうなことぞと思ひますけれども、水路の構造上及び管理上から現在のものに直接ふたをかけることは好ましくございせん。したがって、多額の経費を必要といたすこととなりますので、今直ちに実現させることは困難だと考えます。十分時間をかけて調査し、将来水路改修の際にはこの点を考慮し、検討してまいりたいと考えております。

赤字財政のものと施政方針の実施方法でございすますが、御承知のように本年度地方財政は二十年ぶりの深刻な危機といわれておりまして、経済界の不況により税等の自然増収はあまり見込まれない上、義務的支出が増大する傾向が予想され、加えて当市は四十九年度決算が繰り上げ充用をいたしました関係もあり、まことにきびしいものがあると考えております。

このような情勢下で施政方針を推進していくことには相当な困難があると考えますが、一応八月を目安にして財政の見直しをいたしまして、できるだけ消費的支出は節約し、選択した事業は実施してまいりたいと考えております。

公共料金、その他につきましては基本的にこう考えております。

公共的な事業でございすので、公共性を尊重しなければなりませんけれども、しかし企業でありますので、企業の本質にかんがみ独立採算をしなければいけない。そんなふうに考えているわけでございます。

以上、御答弁申し上げます。

（「答弁漏れ、手数料条例をどう考えるのか」との声あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 一八番議員さん、申し上げます。

通告の内容が、第三番目でございすが、まだほかにいろいろじんかい手数料、水道施設の問題について、それから給水料金等それから市費の助成についてというようなことがまだ残っておりますのでございすが、

（「公共料金値上げに関連して具体的な問題として提起したわけ」です。時間が過ぎますから、こっから質問します」との声あり）

〇議長（吉田勇治郎君） ちょっと待ってください。第一回目の答

弁は時間外でございすので。

暫時休憩します。

午前十時二十二分 休憩

午前十時三十二分 再開

〇議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

〇一八番（渡辺軍治郎君） ただいまの質問に対して細部にわた

てのお答えがありませんが、この水道料金値上げの問題については水道審議会や文教民生委員会でかなり論議された問題ですからこちらの質問に対して、最初答弁ができないというのは私は少しおかしいと思うんですが、答弁が限られた部分しか受けておりま

せんで、各論的なものですが、再質問の中で明らかにしていきたいと思います。

第一問ですが、保育料の問題では、財政事情等を考えて検討するということですが、市長が大体考えている一連の考え方というのが公共料金値上げに端的に出ているように、取るものは取ると、出すものは出すまいとするような、そういう政治姿勢がかなり強く出ていると思うんです。

これは鴨川と比較しましても、保育料の問題は、この前も問題にしましたが、鴨川では今まで館山が二万五千元ぐらいのときに一万円でやっていたんです。それを現在、一万円を一万五千元に鴨川と比較しても一万二千元ぐらい高いわけですね。

鴨川の予算規模をみれば、一般会計で十七億程度で二千万円の助成をしているわけです。それと比べた館山の財政規模です。ねわずか一〇%乃至一四%の助成では金額にしても七百万ですか、だいぶ大きな開きがあると思うんですが、これは今ここで、先のほうに問題が多数ひかえていますので、改めて問いませんが、財政事情を考慮してということに、福祉を重点の施策として掲げている以上、こういう子供の保育の問題、保護者の立場に立ったそういう指導をひとつ進めていただきたいと思っています。

それから、第二問目の中央排水路の上の歩道橋の問題ですが、あそこの排水路には子供が落ちてけがをする。お年寄りが落ちてけがをするというようなことで前から問題になっていたところですが、あの朝日湯からアタックの脇に行く道路は、最近自動車が相当乗り入れが激しくなっているわけです。

そうして、排水路の上が館山木工や江田材木の置き場になって

いるわけです。その置き場から木の切れはしが排水路に落ちて水路を妨げるというようなこともあるわけです。現在でもあそこについてみればわかるように、たくさん細かいものが乗ってるわけです。そういうことを考えれば、あの歩道橋のつながるそういう歩道をつくる必要だと思うんですが、答弁ではだいぶ金がかかるといふようなこともいっていますが、一メートルおきに現在支柱があるわけです。その支柱の上に、多少こわれているところもありますが、板を渡せばできる程度のものでもやる考えがあればできると思うんですが、市長の考えはかなり恒久的なそういう考えで答弁されているようですが、今でもやる気があればできるはずですよ。そういう点はできないのかどうか。お伺いしたいと思います。

○土木課長（飯田治男君） ただいまの問題でございますが、支柱は横への力が働いているわけでございますが、あの上にあたふたをかけると、上からの重みに対しての配筋がやってありませんので、危険の状態になると思います。

今、私どものほうで、出入り口などやられる場合の行政指導としましては、現在のサクの外側に改めてコンクリートの橋台をつくっていただいて現在ある水路とは関係なく、その上にとふたをかけてもらおうというふうなことで沿道の方には行政指導しているわけでございます。

先ほど、お話しがありました子供さんたちが落ちたという問題につきましては、防災課のほうで本年度国道からアタックのほうに向いまして、水路ぎわに防護サクを施設する計画になっていると思います。

〇 一八番 (渡辺軍治郎君)

だいが金のかかるような話ですけれども、できるだけ実現されるようにひびつお願いしたいんですが、それと同時に排水路の上を置き場にしてるのは排水路の上を不法占拠しているというふうにみられますが、この取り締まりを厳重にやって、近く排水路のしゅんせつをやるということをお願いしてみますが、どぶさらいするにもあの中をもぐって通らなければできないような状態になっていますから、そういう点は厳重にひとつ取り締まってあの上に物を置かないようにしていただきたいと思っています。以上で、この問題は打ち切ります。

それから、市長の答弁の中で独立採算制の問題ですが、企業の本質からみて独立採算制は必要だということに答弁されておりませんが、公営企業法の第三条では「公営企業は、本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されなければならない。」としているわけです。ですから、企業の独立採算制だけを強調して公共の福祉を増進するというのが抜けていると思いませんか。ただ、市長の考え方をみますと、独立採算で何でも赤字が出れば利用者の負担でやせると、一般の企業だったら当然独立採算でいきますが、ごみや、汲み取りや、ごみは無料になっていますから問題はございませんが、市長の考えではこれも料金取った方がいいというような、そういう発想が非常に公共の福祉を重点施策に掲げながら、実はそれと矛盾するようなこともやっているの、そこをお聞きしているわけです。全体の問題として答えてもらいたいと思います。

〇 市長 (半沢良一君) 先ほども答弁がことばが足らなかったかも知れませんが、水道企業は、企業として経営される以上、いかに

公営企業といえども企業の本質にかんがみて当然独立採算で運営すべきだと考えておりますが、お説のとおり、地方公共団体が経営する以上、その本来の目的である公共の福祉の増進の見地に立って運営されることはいくらでもございません。

しかし、公共性の確保ということと、独立採算制ということは本来なかなか相調和しないものだという考え方もあり得るわけでございますけれども、問題は独立採算制というものの考え方だと思えます。企業会計と一般会計の負担区分を明確にいたしまして本来企業会計の負担とされるべきものについては独立採算制を保持すべきだというふうに考えているわけでございます。

たとえば、水道の場合でしたら、資本的収支に属するものは一般会計、収益的収支に属するものは企業会計として独立採算を追求すべきだというふうに考えているわけでございます。

〇 一八番 (渡辺軍治郎君) 公共の福祉ということを考えて、地方財政法の中でもこれは支出の八〇%ぐらいをということ、経費全体をそれを全額みるような、そういう立場は地方財政法からみてもそういうのではないわけです。

だから、市長の考えというのは、公益性とか、公共の福祉というのを市長の施政方針でいっているように、市民生活を根本理念にするというようなことをいっていますが、そういうことと矛盾しているわけですよ。そのところをお聞きしているんですが、市長の考え方の中には公共性とか、福祉とか施政方針でいったそういうようなことはもうどっかにいっちゃって、ただ赤字だから、赤字を解消するというにとらわれているのではないかというふうに考えるわけです。

その点は、これ以上の答弁はいただけないと思いますので、次に進みますが、汲み取り料金の値上げも議案に出ていますから、

そのときに問題にしたいと思いますが、市長は、公共料金の値上げの問題を文教民生というようなところで審議する中で、ごみの手数料も取ったほうがいいと、こういうようなことも発言していますが、これは市の手数料条例と矛盾するんですが、それはどういうふうにお考えですか。

○市長（半沢良一君） 確かに、ごみの手数料は市の条例で取らないことになっておりますから、取る意思はございませんけれどもいわば、こういうごみ処理というようなことは公営企業的な性格を持っているものでございますので、全市民の恩恵をこうむるのじゃなくて、特定の人が、しかも個人がサービスを受け、しかもその受け方とか、受ける数量、量的な問題でもいろいろ違いがあるわけでございますので、これは公平の原則からいって、その自分の負担をすべきというのは、私は基本的な考え方でございますので、たとえば、ごみのようなものもそうすべきではないかということを申し上げた、考え方でございます。現在の段階でごみ手数料条例によって取らないことになっておりますので、取る意思はございません。

○一八番（渡辺軍治郎君） ごみの料金を取る意思がないというのは条例でできておりますから、条例に反することはできないと思いますんですが、それは当然なんですよ。

ただ、問題は、市長さんのいうように取ったと仮定した場合に料金を納めることが困難な人は、ごみをどっかに捨てると思うんです。そうした場合に、公共衛生いろいろ問題になっているごみ

の問題が、各自がかってにそこらに捨てるというようなことを、これは防止するために無料にして協力を求めるという立場で進めたいと思います。市長の考えというのは全くそれとはもう関係なしに、ただ、市民が利益を受けるならば、当然それに対する料金は取るべきだという考え方が非常に強いので、そこらのところが非常に問題だと思っていて、これは時間がないからこれ以上追及しませんが、考え方を少ししかえる必要があるんじゃないかというふうに思います。

それから、水道料金の値上げについて、これは水道審議会や文教民生委員会で問題になっていたんですが、水道法の十五条、先ほど申し上げましたが「水道事業は、給水を受ける者に対して常時水を供給しなければならぬ。」というふうに規定しているわけです。五条の六では、それに対する設備、施設、配管、その他の施設をこの水道法にいわれているように、水を受ける人のほうに、要するに受給者に本当に水道法にいうように行き渡っているのかどうか。そのへんを一つ聞きたいと思います。

○助役（畠山 伝君） お答え申し上げます。

確かに、この十五条の規定ではおっしゃるとおりでございますが、正当の理由によって同条一項の給水契約の申し込みに応じられない場合についてはこの限りでないというようにすることにつきましては、申し込み者の地域が配水管の敷設計画、いろいろ地形的な関係、あるいはまた正当な企業努力をしても、なおかつ給水量が不足するような場合、こういうような場合についてはこの限りでないと思っておりますけれども、こういうふうなことで一部給水の申し込みに応じられない面も確かにございます。

ですから、こういうものを今後とらえ上げていろいろな施設し、設備をして一日も早く、一刻も早くそうしたものを解消するような方向で準備を進めているわけでございます。

〇一八番（渡辺軍治郎君）　そういうことを聞いているんじゃないですよ。現在、市民のもとに水が水道法にいうように、常時水が給水されているかどうかというのを聞いているわけですよ。

これは、水道審議会や文教民生の中でいいたけれども、当局側も知ってるように宮城方面、笠名、大賀こころへんは時間給水で断水するというようなことです。その他下真倉、館山でも、新塩場、上須賀これは調査して知ってると思うんです。房州水道を買収して中央水道になったその中にも水が出がわるくて困るとタンクをつくって、そのタンクの中に貯水して使うというようなことが実際にあるわけですよ。そういう水を本当に必要量満たせないというような、こういう状態が現実にあるわけですから、そういうものを水道法にいうように配管とか、そういうものをかえて水の出るようにしなければ、水道法にいうような供給者としての立場がないと思うんですよ。

そういう問題があるのに、料金を上げるといふことは不当ではないんですか。断水したり、時間給水したり、今でも朝晩になると水の出がわるい。こういうところは調べてみますと、配管の設置が非常にわるいわけですよ。そういう問題を解決しないで、水道料金を大幅に上げるということは不当ではないかということ、これはどういふふうにお考えですか。

〇助役（畠山　伝君）　おっしゃるとおり、一部そういう地域も出ておるわけでございますが、この水道問題につきましましては現在い

ろいろと研究中でございます。

〇一八番（渡辺軍治郎君）　研究中ということですから、ひとつお願いしておくんですが、料金を上げるなら水の出ないような、そういうところを改善しなくては市民は非常におこると思うんですよ。当然これは値上げするならば、そういう問題は解決されるような方向でやってもらいたいと思います。

それからもう一つ、次の問題は給水の原価の問題ですよ。だから今いったように、水が能率的にやられて全部の受給者に対して水が常時行き渡るといふような、そういうもとで原価に照らして料金が妥当であるかどうか。そういうことが検討されるべきですよ。そういうものが実際は能率的な運営になってないんですよ。原価を計算するにしても、今メーターが市の計画では千百四十もメーターつけなければいけないところがあるわけです。そのうちの八百は、メーターが老朽化して全然役しないというようなことになっていきますから、どれだけ水が使用されたかはつきりつかめない。そういうことで、水の生産原価が一体計算できるのかどうか。それも合わせてお伺いしたいと思います。

〇助役（畠山　伝君）　現在の総原価からみますと、当たりの原価九十四円十八銭にしておるわけでございますけれども、御案内のように二十円、三十円あるいはまた三芳のほうから六十円で受けておるようなわけでございます。水道施設にはこうした水をつくる原価がかかるわけでございますので、そういうものも考え合わせて、やはりこれは企業努力をしつつですよ。その額もそれに適応し得るような価額でお願い申し上げて、早くそうした施設を完成させるといふような方向でいきたいと思っております。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 確かに、三芳水道から六十円で買って市のほうで七十円にしたいという意向ですから、そこで利益をみているわけです。こんなことは間違いだと思ひます。

三芳水道の水の原価は百四十八円です。それで七十円です。

大体原価の半分が供給価額です。これは三芳水道値上げするときにそういう計算出していますから、なにか三芳水道にならえというようなこともいっていますが、おたくのほうから出した資料でみますと、有収水量、実際使われているか、どのくらいあるかということではかなりずさんです。大体四十八年度が八二・三%ですが、それから四十九年度になると一一〇%ぐらいになるかと思いますが、五十年度は二千六百に対して二千百ですから、大体七九%と率が違っているんですよ。そう大幅に違うわけではないと思ひますが、出してくる資料をみると、そういう点でどのくらい水が使われているのか、その水に対する値段がどのくらいになるのか。原価をみても非常にはっきりしない面があるわけです。

そのことは、当然申し上げましたように、メーターがついてないのが千百四十もあるということは、水がどのくらい売られているのかつかめないわけです。そういう点からみて、当然これから検討することですから、そういう問題はひとつ十分にやってもらいたいと思ひますが、水の使用量をまずつかむために、市のほうでは最近メーターをつけるような考えがありますが、いつまでこのメーターを取りつけるか、大体千百四十不足しているわけですから、いつまで取りつけるのか。簡単に伺ひします。

〇水道課長（大嶋重義君） メーターの取りかえてございますが、現在すでに実施しております。できれば、九月一ばいぐらいまで

に行ないたいと思ひますが、夏でもありますので、お客も入ってきますし、その関係で多少あるいは延びるのではないかと思ひますが、とにかくこのことは御指摘のとおり一番大事なことでございますので、私どものほうでは全力をあげて一日も早く完成いたしたい。こう思ひしております。いましばらくお待ち願ひたいと思ひます。

〇一八番（渡辺軍治郎君）

九月までといひますと、九月の議会に市長は水道料金の値上げを出すといひことをいっているわけですよ。水がどのくらい使用されているかわからないような状態で九月までという、おそらく八月ぐらゐまでにやらなければつかめないんじゃないですか。九月はおそらく検査する、それに間に合うようにできるのかどうか。これは水道料金との関係もありますので、だからやっているのではなしに、大事なことは多少金がかかっても早くやるということではなければいけないと思ひます。

それから、検討するといひますから、配管のわるいところは水が出るように、これも水道料金値上げする前までにやるようなこととあれば、水道料金の値上げも考える必要があると思ひますが、それができないうちに料金を大幅に値上げするといひようなことは問題がありますから、そういう点は十分検討してもらいたいと思ひます。

それから、最後に、財政事情を、市長は口を開けば財政事情というわけですが、三芳水道に三千九百九十万円助成しているわけですよ。三芳水道は那古、船形、正木、八幡、湊の一部ですが、こういう館山の一部分のそういうところに約四千万近い助成をして、市の水道料金を大幅に上げるというのに、房州水道を買収して

大体一元化の方向にいつてるのに、そこに助成できないというのはどういふことなんでしょうか。その点一つ。

○市長（半沢良一君） 御指摘の三芳水道へは三千九百九十万収益的収支と資本的収支の両方に出しております。

市水道に対しましては、四千四百九万円を支出しております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 今まで簡易水道には助成していたわけですよ。四十九年度は四千七百万ですか、内部保留を引いて四千百万円の赤字が出ている。赤字が出たというのは、四十八年度のように助成すれば四十九年度は黒字になっているわけです。助成すれば値上げをしなくても済むはずなんです。ところが、値上げをするときにそういう助成も考えないで、しかも赤字の先取りというように五十三年度まで推定計算して赤字を出して、それに見合うような料金の値上げをするというようなことは、これは不当だと思わんですが、その点は、助成の問題と合わせて。

○市長（半沢良一君） 先ほども申し上げましたように、基本的に企業会計と一般会計との負担区分を明らかにいたしまして、本来企業会計の負担すべきものと、それから一般会計で負担すべきものと、明らかにいたしまして、本来企業会計の負担すべき収支については独立採算でやっていきたい。そんな考え方で値上げを考えているわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 出資金という形で資本勘定には出ていると思うんですが、出資金と助成とは違いますから、そういう点ではひとつ、他会計からの繰り入れも地方財政法ではそのようにすることを認めているわけですから、十分考えてやってもいいと思うんです。

とにかく全体として、市長の考え方、施政方針が自治省の事務次官通達に基づいて手数料や、公営企業の赤字を解消しろといったような通達がきているわけですよ。それに基づいてやっていると思うんですが、ここらは中央直結の政治で、中央から地方自治が制約されるというようないふことがかなり出ているので、こういう点は地方自治本来の立場に立って、地方財政の赤字をつくったのは政府ですから、政府のほうにこの赤字を解消するようなそういう運動を展開するように、そういうことを市長にお願いしたいと思うんですが、市長は、そういう点はこういうふうに考えておりますか。

○市長（半沢良一君） 必ずしも自治省通達ばかりに従っているわけではございません。

私は、いつかの議会にも申し上げましたとおり、自分たちの町は自分たちの力でみんなが力を合わせて、金のある者は金を出し力のある者は力を出し、そういう考え方で市政にあたっているわけでございます。必ずしも自治省の通達ばかりに従っているわけではございません。

それから、確かに今の財政に対しては窮迫していることは事実でございますので、これに対しては私個人の力ではとうてい及びませんので、全国の市長会等を通じて国に対して強力に働きかけているわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） あらゆる機会を通じて、地方財政の赤字というのは、結局赤字だからやるものはひかえる。取るものは取るうとする傾向が今度の議会の中でも市民センターの使用料の値上げとか、汲み取り料金の値上げとかいろいろ出ていますから

そういう点は国のほうに向けて要求してもらいたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 一八番議員君の質問を終わります。

次、一六番議員安西益男君。

（一六番議員安西益男君登壇）（拍手）

○一六番（安西益男君） 私は、まず最初に市長の公約実現に対する具体的な事業計画について御質問申し上げます。

市長は、市民に対して盛りだくさんの公約を発表されてまいりました。私は、去る三月の五十年一度第一回市議会定例会においても市長の公約並びに施政方針に示されておる重点目標は、今後の館山市の将来に対してきわめて重要な指針であり、それがどのよう具体化されていくかが全市民の願いであり、市政執行者の当然の責務でもあると申し上げてまいりました。

市長は、施政方針において館山市総合計画にそって計画の推進をはかってまいりたいと述べておられますが、率直に申し上げますとして実質的に具体的な公約実現への事業計画は全く示されていないと思いますが、いかがなものでありましょうか。ただ、はっきりしていることは、前年度から引き継がれてまいりました事業の完成の方向であるように感じております。

館山市におきましては、これまで他市に比較して福祉行政、教育行政と消化されてまいりました面はかなりあり、それぞれの立場にあって特色とすべき点は、よい面は今後とも十分生かして運営にあたっていたきたいことをお願いするものであります。

館山市は、現在緊急を要する問題が相当にあり、施政方針で市長が指摘されておりますように、し尿及びごみ処理施設の老朽化等の対策、公共下水道の設置に伴う終末処理施設の用地の取得計

画の促進、さらにと畜場の老朽化は限界を越えており改築の必要は急務と存じておりますが、どのように検討されておりますか、お尋ねいたします。

次に、中小企業の育成、商店街の再開発の問題についてであります。市長は最もその必要性を強調しておられます。今後どのように指導育成を考えていかれるか、お尋ねいたします。

御承知のように、きびしい経済情勢下において自主的努力は当然でありましょうが、大企業の進出によって経営をおびやかされておるといのが実情でありましょう。将来の問題として専門的な指導育成機関としての中小企業センターの設立等を考えてはどうかと御提案申し上げます。

次に、道路の整備についてであります。施政方針に市長は道路網の整備は急務であると述べておられますが、観光的にも、生活環境の面からも道路の整備計画は具体的にすべきと思いますが、現実には予算面では後退しており、今後どのように対処されていかれるのか、お伺いいたします。

次に、水道料金値上げが予想されておりますが、一般財源からの助成をすべきだと思っておりますが、どのようにお考えでしょうか。

地方自治体は、サービス行政として公営事業を行なっておりますが、でございますが、その経営は一応は独立採算制をたてまゝとしておりますが、公営事業の目的は福祉政策として住民サービスが主であり、その性格は民間企業と異なり、独立採算制よりも公共性に重点が置かれておるのが実情でございます。

館山市の水道事業も住民の生活水準の維持と経済、社会の変動に伴って、水道事業の重要性はますます増加してまいります。水

道事業審議会等における料金値上げ問題は、全面的に市民の負担によって一切を処理するよう伺っておりますが、その点断行すると、そのように存する次第でございます。当局においては事情をよく把握の上、善処するよう強く要望いたす次第でございます。次に、不用品登録制度についてでございますが、この制度は不用品となった物品でなお使用できるものを交換または販売することによって、再利用もって消費生活向上と安定に寄与しようとするものであります。

まず一つとして、不用品の登録についてであります。不用品を譲りたい方、譲っていただきたい方または交換したい方は役所の所管の窓口へ届ける。またははがき、手紙等の申し込みを受け付けるというふうにするわけでございますが、所管課では毎月発行する広報の不用品コーナーに掲載していく。なお申し込み用紙を備えて置くことが必要かと思えます。

二番目としましては、不用品登録のできる物品です。法令上禁止されてある物品、腐敗のおそれのある物品、評価の困難な物品等を除き、その他の品物が登録されるようにしておくわけでございます。

三番目としましては、物品の交換または販売の手続であります。が、イとして、広報をみて気に入ったものがあつたならば、当人同士で取り引きをお願いすることとする。この場合、販売人の利用は御遠慮願う。こういうふうにしていったらどうかと考えております。ロとしましては、交換または売買が完了したときは、申し込み人は役所の所管の窓口まで連絡すること。

以上の点につきまして、当局の適切な回答をお願いする次第でございます。以上でございます。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 安西議員の御質問にお答えいたします。

環境整備対策のうち、まず第一点が環境整備対策特にし尿及びごみ処理施設の改善と終末処理施設の用地取得、と畜場老朽は限界を越え改善の必要性急務と思うがどうかと、こういう質問でございますが、環境整備対策のうち、し尿及びごみ処理の点につきましては、し尿とごみ処理施設はそれぞれ十年を経過いたしました。老朽のため改善並びに整備が急務でありますことは、ただいま御指摘のとおりでございます。

これに加えて、地元住民から移転も迫られている面もございます。一方、処理の量はし尿、ごみともども限界を上回っているわけでございます。

この対策は、私の最重点施策として取り上げていく考え方でございます。これらの用地の確保につきましては、用排水の問題、住民感情等、難問題をかかえております関係上、処理施設改善のための専門委員会等を含めて検討を続けていきたいと、そういうふうに考えているわけでございます。

と場の老朽化の問題でございますけれども、と畜場の施設は昭和十年に開設いたしました以来、耐用年数も相当経過をいたしているわけでございまして、御指摘のとおり老朽化しており、現在改築及び修理等によりまして鋭意努力して運営をいたしているわけでございますけれども、市が直営で実施しております関係上、このまま放置しておくわけにはまいらないわけでございます。公

共性を持った施設ではございますけれども、受益者については市内の一部の利用者及び他市町村にも及んでおりますので、対策といたしまして、先般来広域圏移管の方向で研究中でございます。これにつきましては、いろいろまだ広域圏のほうでも問題もございまして、しばらく御猶予をいただきたいというふうに考えております。

それから、下水道、下水路の設置計画でございますけれども、現在のところ、下水路の整備改良は現地の状況も考えながら、実情に合うよう種々実施しておりますけれども、抜本的な下水道整備対策といたしましては、国の第四次下水道整備五カ年計画の中に盛り込んでもらいまして、昭和五十三年度から実施できるように現在要望をしているところでございます。

この中では、汐入川の環境基準達成のために、汐入川の周辺地域を含め三軒町海岸線までの館山駅周辺約百六十三ヘクタールの中心市街地の環境並びにそれに対する終末処理場の整備を要望しております。これを実施するにあたりましては、市の財政事情とにらみ合わせながら、綿密な実施計画を立てて進めてまいりたいと、そういうふうに考えているわけでございます。

質問の第二点に、産業面における中小企業の育成、商店街の再開発の必要性を強調しているけれども、具体策をどのように推進されるかという御質問でございますが、最近の中小企業をめぐる環境変化は、原材料コストや人件費の高騰に加えて、総需要抑制により産業活動が停滞を続けるなど、多難な局面へと展開しておりまして、中小企業に対しましては積極的な経営努力と環境適応力を要請されているわけでございます。このような環境変化

に適応していくためには中小企業に対しまして、その自主努力を援助するための施策として国、県の施策と相まって次のような対策を推進していくと考えてございます。

一つといたしまして、経済の激動に対応できる体質強化に必要な近代化、合理化のための資金の円滑な調達が最も大切でございますので、現行のあらゆる中小企業資金融資制度の適切な活用をはかりまして、経営の合理化、設備の近代化を推進するわけでございます。

第二点といたしましては、中小企業の大半を占める小規模事業者の指導育成につきましては、商工会議所におきまして経営指導員五名、補助員一名、記帳指導員三名を配置し、小規模事業者を対象に商工業に対する相談、指導を中心とした経営改善普及事業を積極的に推進しておりますが、市といたしましては、これら商工団体等の行なう事業を強化するため、人件費、事業費について国、県と協調助成を行なっておりますが、今後経営改善普及事業の一その充実の努力をいたす考えてございます。

第三には、経済的に弱い地位にあります中小企業が、いろいろな経済の変動に対処するには相互扶助の精神にのっとり情報の収集、交換、協同事業の推進など、各般の面で組織化を進め、団結して事態にあたるのが強く要請されているわけでございます。

そのために、中小企業の組織化を推進することを目的といたしまして、市内各地に小規模事業振興委員二十名を配置いたしました。各種指導とともに協業化、組織化を推進いたしております。

また、商店連合会事業に対する助成や、中小企業組合強化資金の貸し付け等、組合が行なう協同事業に対しまして、必要な資金

融資の幹せん等をさらに積極的に実施いたしたいと考えてございます。

商店街の整備につきましては、関係商店会の積極的な、また自主的な活動を期待いたしまして、その推進をはかりたいと考えておりますけれども、商業の振興基盤であります将来の人口集積、消費動向、産業活動など、環境要因も十分に分析いたしまして検討いたしたいと考えておるわけでございます。

観光面にはまず、道路整備が急務であるということでございますが、現実には予算面で後退しているように見受けられるが、今後どのように対処するかという御質問でございますけれども、首都圏から南房総に通ずる道路は国道一二七号線が唯一の幹線道路でございますけれども、幅員が非常に狭くて曲折が多く、夏季等は特に車が渋滞を起こすなど、観光、産業の発展に障害を投げかけております。このため、一二七号線バイパスの早期実現を関係機関に要望するなど、道路整備の推進に努力をいたしておるわけでございます。

一方、市内の道路におきましても、逐次改良、舗装を進めてまいりましたけれども、四カ年計画による主要市道の舗装も完了いたしましたことと、最近の市財政の窮迫に伴い道路予算もやむを得ず横ばいの状態でございますので、今後財政の好転に従いまして予算面でも充実をさせていきたい。こう考えているわけでございます。

水道料金値上げについてでございますけれども、一般財源からの助成をすべきと思うがという御質問でございますけれども、御案内のとおり、水道事業は公営企業法適用の事業でございます。

法の趣旨でございます経営成績及び財政状態を明らかにして経営すべきであるというたてまえから、一般会計からの繰り入れは原則的には好ましいものとは考えておりませんけれども、今後市民に必要なサービスを実施してまいりますためには、思いきった経費の節減と収入を確保いたしまして、長期にわたる経営の安定化をはかる必要があると存じますので、そのような過程におきまして、財政的に許される額を検討いたしまして、御審議をいただきたい。こう考えているわけでございます。

大きな第三点、不用品登録制度についてでございますけれども県下でも数市におきまして御質問の趣旨にそった不用品登録制度による交換を実施している市がございますけれども、当市におきましては昨年、関係機関の協力を得まして不用品交換即売会を実施したわけでございますが、本年度も昨年の実施要領にそった不用品交換即売会を実施する計画でございます。

世界的なエネルギー資源の問題が叫ばれ、消費生活の見直しが要請されている今日でありまして、まことにけっこうな御意見であるかと存じますので、十分検討いたしました上、市民各位の御理解と御協力を得て関係団体に呼びかけ実現をいたしたい。こう考えているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

〇一六番(安西益男君) ただいま、市長の回答いろいろと聞かしていただいておりますが、確かにこれは、はっきりという回答が非常に無理という点もわかります。

そこでこれは、市長就任いわば公約に公共下水道あるいはまた処理場等はお話しされておるわけでございます。そういう面、

さらにまた前々からの大きな課題として、また現市長は私の宿題であり、課題でもある。このようにもされておるわけでございます。

そういった面から、これは前市長の本間市長に対して、このごみ処理場あるいはまたし尿処理場、さらには公共下水道に伴う終末処理場用地取得の特別委員会をつくってはどうかということを御提案申し上げます、たいへんこれはいいことであると同意を得てあるわけでございますが、その後の動きというものがあまり感じられない。この用地取得に対する動きというものがあまり感じられない。これは急を要するというのでは、すでにいづれも限界を越えておる。し尿処理場にしろ、ごみ焼却場にしろも本当に倍以上のものが投入されておるといって、すぐにでもこういった対処し、あるいはまた綿密な計画に、また具体的に取組んでいかなければならない。このように要望するわけでございますが、そういった具体的な動きというものが本当に現時点にきては急務であるというふうに考えておりますが、なお一段と、こういった方向について進んだ、一歩前進したそういった計画があるのかどうか。まずその点をお聞かせ願いたいと思います。

それから、と畜場でございますが、これも非常に建物は老朽化し、そしてまた条例等にありますように、清潔に処理し、仕事をしなければいけないというようにされておるわけでございますが、今の状況では清潔な処理方法ということはいえないと思います。

さらにまた、冷蔵庫等は果して機能が十分であるかどうか。こういった点にも非常に疑問を持っているわけでございますが、こういった点も十分検討され、またと畜場の問題にしまして、数

前年提案しました近代的な建物に改築すると、こういうお答えもいただいておりますが、いろいろな状況から延び延びになっております。

いずれにしても、建物の改築の時期であり、あるいはまた広域圏移管ということも数度申し上げてきておるわけでございますが非常にこれとても積極的な動きというものが、働きかけ、呼びかけというものがなくはないか。関係者は一様に広域圏移管ということを強く望んでおるわけでございますが、こういった積極的な行動を強く望み、現段階では具体的にどのような交渉がされておるのか。その二点からお聞きしたいと思います。

〇 助役（島山 伝君） お答え申し上げます。

用地取得のことにつきましては、いろいろもう各地区に若干の調査をいたしましたところもございまして、いろいろ見てはございますけれども、そういうことで、この議会を終りました時点で積極的に、具体的に、具体化してまいろうというふうに先般も打ち合わせした次第でございまして、今後懸命にそれについてはやってまいりたいと思います。

それから、と畜場の件でございしますが、これは確かに老朽化いたしておるわけでございまして、しかし館山市の方々だけじゃなくて、広域的に利用されておる方々も多いわけでございますのでこれは広域の力で適確なものをつくるのが最高だと思っておりますが、ございますが、これにつきましては、御案内のようにもう一つ鴨川市に民間の業者がございしますので、そうした方々のお考え方、御都合等もあるわけでございますが、先般の町村会あたりの席でもそうした話もお出しておるわけでございますので、これとても今後

積極的に早急に目鼻をつけていきたいというふうに考えておる次第でございます。

〇一六番(安西益男君) 議会終了と同時に行動をおこすというお答えでございますので、議会前にそういったお答えがあればいいんしあわせだと思いますが、そのようにぜひお願いしたいと思っております。

それから、鴨川の民間のと畜場がありますが、これは違法行為をしているわけでございますので、私はある場合によっては県に直接に現地確かめろということも考えているわけです。と畜場法に違反した処理方法、そういったことをやっているわけでございますので、当然現在の公害の立場から許されないというのが当地の付近の住民の考え方、それはそれとして、どうか広域圏移管に対する活発な方向を御検討し、そのように進めていただきたい。この点を強く申し上げておきたいと思っております。

それから、下水道並びに下水路並びに終末処理場等はいへんに予算のかかることでございますが、遅かれ早かれ前市長からの課題でありますし、現市長も公約の中にもありますように、また全市民が待望しておるこういったことは、一日も早く実現の方向に着手していかなければならないと思えますし、また用地取得だけでもそういった動きというものを住民は待っているわけでございますので、そういうことで、これは市長の公約あるいはまた施政方針等にお書きになったことは、市長の立場から重みのある、責任ある立場でございますので、そういった立場にあるわけでございまして、それだけに市民の期待はたいへん大きいんじゃないかというように感ずるわけでございます。そういった点で、こ

の問題には、処理場の用地取得等には本格的に取り組んでいただきたい。こういうふうに思うわけでございます。

次の中小企業の育成、商店街の再開発ということでございますが、いろいろとお述べになったわけでございますが、いずれも、いわば中小企業あるいは商店街の方たちの自主的なそういった、たいへんな現状ではないかというふうに思っているわけでございます。そこで、館山の場合は、昔からのそういった商店街あるいは中小企業等に從事しているそういった立場の方たちの面からするならば、大企業の進出、大企業と申しますか、デパート等の進出によってたいへん経営というものがおびやかされているというのが実情でございます。

そういった面から、やはり大企業と、そしてまた中小企業との活動の調整といえますか、そういったアドバイス等もこの点は考えてやっていかなければいけないのじゃないか。価格といいますか、販売力といえますか、たいへんそういった面では追いつかないというような現状が現在の中小企業であり、商店街の実情ではないかと感じております。

そういったことで、でき得るならば、中小企業センター、将来のこととしてお願いしたい。こういうふうに申し上げたわけでございますので、その点も十分御検討願いたいと、お願いする次第でございます。これは要望として申し上げているわけでございます。

次に、道路整備ということでございますが、道路整備ということにつきましては、御承知のように総合計画等にも、道路については自動車の保有台数及び自動車交通量は年々増加しておる今日

において、道路としての環境はきわめて大きいものがある。特に市街地における交通渋滞が懸念されてある現状であると、これに対するためには市道の改良、整備を必要とする。このように計画に示されているわけでございますが、確かに昨年から思いますと実質的な道路に対する予算の縮小というものがはっきりしておるわけでございます。

そういった点で、やはりいずれの渋滞にしてもどこも同じだと思えますけれども、たとえば館山ではなく、鴨川市の場合には具体的に五カ年の建設計画というものを発表されております。年間十億、五年間で百億という目標で、どの道路、どの下水路、どの建物というふうに具体的に計画発表というものがなされております。そういった点では、やはり館山の場合もいつに、何をというそういうところまで具体的なそういう今後の計画というものが発表というものが必要ではなからうか。そんなふうに痛切に感ずるわけでございます。

そういった面で、やはり道路に対する問題等も、やはり場合によつては市道に、生活関連として市道以外の道路の認定がえ、市道としてそれを舗装工事等も推進するという計画をぜひ進めていただきたいというふうにお願ひするわけでございますが、どうかひとつ、道路等につきましては、市民生活の上からも非常に急務であるというふうに感じております。そういった面で十分道路整備について対処ということも強く要望してまいりたい。このように思います。

次に、先ほど来、問題といえますか、御質問があったように、私も水道料金値上げが現在予想されておると、こういった段階で

一般会計からの助成はどのように考えられるかということでございます。質問の中にも申し上げてまいりましたように、公共事業というたてまえから独立採算制ということがたてまえである。どのように申されておるわけでありますが、これは一応たてまえということができるのではないかと。

いずれの自治体も、大体が一切がっさいを全部市民に負担させるということは少ないような現状である。確かに予算面という面からするならば実情はわかります。であるからこそ、ある程度の一般財源からの助成はぜひとも。今日までずっと長い間実施されてきたわけですから。四十九年から一切打ち切りというのは非常に抵抗があるのではないかと、市民感情からもしかり、さらにいろんなたくさん市町村があります。三芳水道等の関連性あるいはまた独立採算制の法的の面からするならば、簡易水道というものは法的根拠はない。あるいはまた房州水道の買収の件についても、三芳水道の場合は起債を市町村で負担するというようなことになっておるわけです。さらにまた買収するならば、市によってまず房州水道を買収し、そして独立採算制という方法ならば、まず当面は料金の値上げということも心配ないんじゃないかということも考えられるわけでございますが、いずれにしても、こういったやはり市もたいへんであるならば、市民もお不安定であり、不安であるという面、さらにはまた水道の二倍、あるいは多いところで四倍というような、こういった値上げに対しては、井戸水両方便っておるところでは、もう井戸水専門にしようという声もけっこう聞いているわけでございます。

そういったいろいろな観点から非常に抵抗があるのではないかと

先般、水道審議会等の、確かに値上げに対する賛成が多かった。

私の場合は条件つき賛成ということで、一般財源からの助成というものは当然考えてもらいたいということで御考慮願ったわけでございますが、どうかその点を、そういう姿勢、これは住民サービスの公共性のものである。そういう性格の事業である。そういったやはりながしかの一般財源からの助成というものは当然考えなければならぬではないか。極端にいうならば、市営事業としてやっているところも広い全国の中にはあるわけでございます。独立採算性だから全部、一切市民が負担するのは当然だというような考えには、私はある程度考えていかなければならないというふうに考えておりますが、まず水道料値上げの一般財源からの助成というものを考えておられるかどうかということ、ひとつ率直にお聞かせ願いたい。

○市長（半沢良一君） お答えいたします。

先ほど、渡辺議員の御質問に対してお答えいたしましたように水道企業は公営企業として、企業として経営されている以上、企業というものの本質にかんがみまして、当然独立採算制であるべきだ。また一方、地方公共団体が経営する以上、その本来の目的である公共の福祉の増進の見地に立って運営されなければいけないということも、これまたいうまでもないことでございます。

この公共性の確保と独立採算制の維持ということ、この二つをいかに調和させるかという問題だろうというふうに考えているわけでございます。

問題は、独立採算制という考え方にあるというふうに考えるわけでございます。企業会計と一般会計の負担区分を明確にいたし

まして、本来一般会計で負担すべきものは、これは一般会計で負担し、本来企業会計の負担とさるべきものについては、あくまでも独立採算制を維持すべきだと、そういうふうに考えているわけでございます。原則として、資本的収支に属するものは一般会計収益的収支に属するものは企業会計として独立採算すべきだというふうに考えているわけでございます。

いずれにいたしましても、この企業性と公共性の調和をどう取るかということは、最後にいきますと、やはり財政の問題になると思うわけでございます。あまりにこの企業を、赤字を埋めるための一般財源から繰り出すということになりますと、一般行政への水準が低下するおそれがございます。

簡単にいえば、赤字財政を、公営企業の赤字を埋めるための一般財源からの繰り出しがどうかにしわ寄せがいくと、それは市民全体の公共の福祉のために考えなければいけないことじゃないか。そういうふうに考えているわけでございます。

問題は、いかに、どの程度で公共性と企業性、独立採算制を調和させるかという問題になると考えているわけでございます。決して、一般財源からの繰り出しを全面的に否定するものではないです。

○一六番（安西益男君） 最後のおことばの否定するものではないということにたいへん私は期待したい。このように思うわけでございます。

いろいろお話の中に、独立採算制ということとは全国的にみてどうなんだ。そういった他市等の全部黒字ばかりの地方財政が多いという現状ではないわけでございます。いずれも地方自治体にし

ても、やりくりされた中でほとんどが自治体としては一般財源からの繰り出しというものが、助成というものがなされておる。これが実情でございます。そういう点から運用するところと執行者の市民本位という、そういう重点を強く置いていたいただきたい。かようにお願いするわけでございます。

非常に、私も矛盾を感じておるというふうに思いますことは、一トン当たりの原価、市の一トン当たりの原価、さらには三芳水道の一トン当たりの原価、相当開きがあるわけであります。そういった点から一トン当たりの単価、たとえば三芳の一トン当たりの原価、市の水道の一トン当たりの原価、まずその点をちょっとお知らせいただきたいと思います。

〇 助役（島山 伝君） お答え申し上げます。

たしか三芳は、この起債の利子がだいぶ入っておりますので、トン当たり百四十二円、館山市が九十四円十八銭です。

〇 一六番（安西益男君） 原価も三芳が百四十二円であり、こちらが九十四円ということでございます。そういう面も非常に市民感情としては納得いかないということをまず考えて、そういう点と、実は、なお一段と市長さんをお願いしたいことは、市長さんは川上知事と特にいろんな面では、市民もそうだと思いますが、大きな期待をもって県からいろんなそういった予算をもらってこられるんだというような感覚を持っておると思います。そういう面もちらほら聞いておるわけでございます。

そこで、私は決して前市長と比較するわけではないのでありますけれども、前市長はやはり三芳企業団の経営についてはいろいろと苦勞されまして、数度か県とも交渉して、現実には年間千二

百万円の補助、これは二十五年間に三億ですか、そういった補助を取りつけたということもあるわけでございます。やはりそういった面の積極的な努力といえますか、されているとは思いますが、れども、なお一段とそういった県の費用、国の費用というものを大いに要求していただきたい。特にそういった点では市民もやはり期待されておるのじゃないかということがうかがえるわけでございます。

そういったことから、今申し上げましたように単価も違う。さらには今までは簡易水道の場合は法的根拠はないという、今までは内勤の職員については一般会計から支給しておった。そういった面、ここにきて一切がっさい全部市民の負担ということになると、そういった点で先ほど申し上げましたように、たいへんな抵抗というものを感ずる。これは一様にそのように思っておるわけでございますが、そういった点で、どうかひとつ再三にわたってお願ひするわけでございますが、一般財源の助成というものを十分御考慮願いたいというふうに思うわけでございます。どれだけということでなく、市民に対する誠意、市もたいへんだけれども、市民に対するそういった姿勢というものを願ひするわけでございます。

最後の不用品登録ということにつきましては、いろいろと今後も研究されて実行するように、市長さんもそういうお話してございますので、なおこれはいろいろと研究してまいりたいし、できれば早くそういった方向にもっていただきたい。これは各市でも最近やっておるわけでございますので、具体的な面はまたそういった関係の方とも今後個人的な上で話し合っていきたいと

いうふうに感じているわけでございます。

以上、時間のようでございますので、以上をもって私の質問を終ります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一六番議員君の質問を終ります。

午前の会議はこれにて休憩し、午後一時開会といたします。

午前十一時五十三分 休 憩

午後 一時 二分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十九名、休憩前に引き続き会議を開きます。

一七番議員石井武敏君。

（一七番議員石井武敏君登壇）（拍手）

○一七番（石井武敏君） 私は、先刻通知してございます各論点につきまして御質問申し上げます。

まず第一点は、現在館山市で行なっている補助金等の制度におきまして適正な運用についてであります。昭和五十年年度においては各種団体約四十五団体に支出されておるわけでございますが、私が特に指摘している点は法令に基づかない補助金、負担金、その他これらに類するものの支出の適正をはかり、もって市の財政の健全化と行政運営の合理化を期していくために、たとえば、仮称館山市補助金等審議委員会を設置したらどうかという提案でございます。

現行の制度のままですと、いささか補助金の使途が不明朗になりやすい傾向にあると思われまます。この点の改善を市長はどのように考えておられますか。まずお聞きします。

次に、一中の跡地利用問題でありますが、この点についても、

市民特に那古地域の地域住民は強い関心を寄せておりますが、市長も市民の要望を各所でさまざまな形で聞かれておられるようですが、今後どのような方向でこれを進められる計画であるか。お聞かせ願いたいと思います。

次に、今まで各老人会等で福祉センターへ集まるとき、無料であったバス使用料が、現在に至って有料及び縮小の傾向にあるようにですが、この点について市長の今後の見解をお聞かせ願いたいと思うわけです。

ちなみに、昭和四十九年度における館山市内の福祉センターを利用する老人の数は延べ一万六千人にのぼります。その年間使用していたバスは大型バスが四十台、マイクロ百六十一台が使用されていたわけでありましたが、本年度に入りまして使用台数の減少がめだちます。これはおもに財政上の理由からの措置であるようにも考えられますが、事実上の老人施策の後退であると思われるか。この点についてどのように考えていますか。

次に、小規模商店の将来に対する施策であります。現在館山市には一千二十一店の商店があります。商店会数は十三であります。

そうして、最近のこれらの小規模商店の経営は一部の大型デパートの売り込みに押されて、その経営はかなりきびしいものがあります。市内のこうした資金の小さな商店及び商店会の今後の育成についてどのように考えられますか。

次に、漁業問題であります。現在館山市内には漁業関係組合五組合、組合員数は昭和五十年四月一日現在で千九百五十一名になっております。これらの漁業従事者にとって海水汚濁により漁

が次第に汚染されていくということは将来にわたる大きな不安であります。この問題は市独自の施策というよりも、もっと幅広く県や国に働きかけていく必要があると思いますが、これら海水汚染問題を市長はどのように考えておられますか。

また、最近の傾向として漁業従事者の年令層が次第に老令化しております。若い漁業後継者を育成していくという施策については計画がありますか、どうですか。お聞かせ願いたいと思います。最後に、市営住宅問題についてありますが、現在市内には那古、北条、笠名、大賀、岡沼、船形、萱野に市営住宅があり、その戸数は二百八十二戸であります。

これらの市営住宅の管理、運営はどのようになされておりますか。入居規定はどのようなようになっておりますか。また入居後の生活所得の収入の上昇した人に対しての措置はどのような方法が取られておりますか。お聞かせ願いたいと思います。

以上、各点につきまして、明解なる御答弁をお願いいたします。以上であります。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 石井議員の御質問にお答えいたします。

第一点は、現在市で行なっている補助金等の支出は適正な運用に欠けているように思われる。したがって、補助金等審議委員会というような委員会を設ける必要があるんじゃないかという御意見でございますが、補助金等につきましては、その効果について十分検討を加え、安易にこれを交付しないよう、また既定の補助金等につきましてもその効果を精査いたしまして、できるだけ整理、統合につとめてまいりましたし、主管課による会計指導等に

よりまして厳正を保ってまいったわけでございますので、御意見ごもっともな点もございますけれども、現在の段階ではそうした補助金等審議委員会といったような委員会を設ける必要もないかというふうに考えております。

第二点の一中の跡地利用についてでございますけれども、御指摘のようにいろいろ地区の方々から断片的にはございますけれども、御希望、御意見を承っておりますけれども、学校が移転するまでまだ相当時間的な余裕もございますので、幅広く各方面の御意見も参酌しながら十分検討を加え、有効な利用方法を考えたと思っておりますので、しばらく時間を貸していただきたいと思います。考えております。

次に、老人福祉センターの送迎バスの件でございますけれども老人福祉センターの運営につきましては、一般の方々も含めまして老人の方々の多数の御利用をいたしておりますけれども、従来より送迎用のバスを借り上げ、無料で利用していただいていたところでございますけれども、本年もこの方針を持続するつもりでございます。有料にするという考えはございません。

特に、昨年度から専属のマイクロバスを配車し、送迎専用に使っております。そのためバス借り上げ料について若干予算を減らしましたけれども、現在の段階において利用者へ御不便をかけるということはないと考えております。そういう意味で、老人福祉の後退にはならないというふうに考えております。

第四点の小規模店舗の問題と大型スーパー、デパート等の問題でございますけれども、最近の県内の各都市におきまして相つぐ百貨店、大型スーパー等の進出がめざましく、既存の小規模商業

者に与える影響はきびしいものがございますが、当市におきましても競合商圏であります木更津市及び千葉市への大型店の進出に伴いまして、商圏内の競争が強まっております、購売力の流出が深刻でございます。特に、小規模商店の育成、振興が要請されるところでございます。

このために、小売り業者への施策目標といたしまして、一つには、中小企業の組織化の促進をいたさなければならぬと考えておりますけれども、商店会組織の強化、企業の協同化等によりまして情報の収集、交換、協同事業の推進など各般の面で組織化を進めまして、団結して事態にあたるよう市内の各種商店団体を通じまして推進をいたしていきたいと考えております。

第二点といたしましては、小規模商店の育成指導という問題でございますけれども、一般的に信用力、担保力が弱い中小商業にとりまして資金の調達に容易ではございませんので、金融の円滑化をはかるとともに設備近代化、高度化事業の推進をはかる考えでございます。

なお、大型店の進出に伴い地元商店を保護するため、県におきまして大規模店舗法により昭和五十年度に県下全域の大型店進出影響調査を実施し、適切な指導がなされることになっておりますが、市といたしましては小規模商業の育成については、でき得る限りの対策を今後考えてまいる所存でございます。

問題の第五点は、漁業従事者にとって海水汚濁により魚が次第に汚染されていくということは、将来にわたり大きな不安であるという問題でございますけれども、水質汚濁問題につきましましては特に海洋の汚染は海国日本にとりまして最も重要な課題の一つで

ございます。

水質の汚濁による魚類の汚染現象等の一連の対策は市独自の施策で解決の得られるものではなく、県や国の強力な施策が必要であることは全く御指摘のとおりでございます。現在、船舶を中心とした海上面での取り締まりは、海洋汚染防止法により海上保安庁が主催し、東京湾を最も嚴重な監視区域として不法排出の事犯摘発につとめております。

また、陸上面では水質汚濁防止法に基づく知事の権限により事業所等の排出を規制するほか、県の水質保全課を中心に現行の濃度規制から総量規制の導入により、五十二年度中に現状より汚濁負荷量の七〇％削減を目標に計画いたしております。

したがしまして、これら国及び県の施策に積極的な協力をいたしていく所存でございます。

また、最近の傾向として、漁業従事者の年令層が老令化しているけれども、若い漁業後継者を育成していく施策があるかとの御質問でございますけれども、漁業従事者の年令層が老令化していることは御指摘のとおりで、事実でございます。沿岸漁業振興上、若手後継者の確保は将来の沿岸漁業の振興上重大なときでございますだけにまことに遺憾なことでございます。

そこで、これが後継者育成については行政機関、教育機関、業界が連絡を密にしまして、相互理解をはかりながら、教育と雇用の両面から問題を説明しつつ人材の確保をはかるとの考えで、すでに安房、君津地区水産教育振興連絡協議会を昭和四十四年十二月に結成いたしました。鋭意努力いたしてまいっておりますけれども、なかなかむずかしい問題もあるわけでございまして、要は

水産業の将来性を魅力ある産業たらしめない限り解決し得ないものと考えまして、本市としては漁業基盤の整備、漁業の近代化、合理化の促進、漁場改良の造成等々諸施策を講じまして努力してまいりましたが、これらによりやがては漁家経営の安定がはかられるものと信じ、今後さらなる努力を重ねてまいりたいというふうに考えております。

第六点は、市営住宅の問題でございますけれども、現在市営住宅は七団地で二百八十二戸を管理いたしております。その管理、運営につきましては公営住宅法並びに市条例等に従って行なっております。

入居規定につきましては、第一種住宅と第二種住宅とございますが、入居収入基準が一種住宅につきましては三万六千円から六万五千円まで、二種住宅につきましては三万六千円以下の方で單身でない親族のあること、住宅に困っておられる方で市内に住所または勤務場所を有する方というような条件に適合する方となっております。

入居後、収入の上昇した方に対しては入居後三年を経過した方には所得調査を行ない、超過基準額以上の方には割り増し家賃の徴収をいたしております。

以上、御答弁を終わります。

〇一七番（石井武敏君） ただいま、各論点に従いまして御答弁を願ったわけであります。再びまだ疑問が残っておりますので、各点につきまして質問したいと思ひます。

はじめに、市で行なっております補助金の制度です。その補助金が的確に生かされているかどうかということは非常に大きな問

題であると思ひます。また、財政上のこういうように困窮してきただと思はれる状況下にありまして、果して効率的にそれが今まで行なわれ、運用されてきたかというような点につきまして、市長の御答弁を聞きますと、各課別に十分検討しておるし、また既定の団体等に対しても整理、統合していきたいと思ひているし、あるいは各課で会計監査を行なっているので十分補助金が生かされているからと、いわゆる補助金を審議する委員会をつくる必要はないではないかという答弁だったと思ひますが、私はここで何点か取り上げてみたいと思ひわけですが、果して、今まで施行されてきました各種団体の中で、その中に本当にきちっと補助金が、このように使われて、このような効果が出たんだといえないような節が確かにあったんではあるまいか。そういうように感じましたので、そういうものを是正するために審議会というのをつくったらどうなんだという提案を申し上げた次第でございますが、それで、お聞きしたい点は、各課で会計監査をやったと思ひますがここでいろいろと聞きたいんですが、都合上二つだけ取り上げましてこの件についてお聞きしますが、一つは母子福祉会の会計監査はすみやかに行なわれたでしょうか。その点が一つ。

それから、水産関係で補助金を出しておりますクルマエビと二枚貝の補助金、これは追跡調査という点で今まで何度かこの議会でもいろんな人が論じてきたと記憶しておりますし、果してそういった補助金が生かされておるのか、どうなのか。この二団体について再び質問したいと思ひます。

それから、次の一中の跡地の利用問題でございますが、さまざまな意見を断片的に市長もお聞きになっておるということですし

また幅広く各階層の意見を取り入れていきたいという姿勢をはっきり伺ったわけですが、ここに一つ、あそこを運動場として広く市民に活用したいという意見もあります。このような意見に対してどのようにお考えになりますか。お聞かせ願いたいと思います。

次に、老人バス利用の件でございます。私が先般、船形地区の老人会に出席しましたところが、具体的にこういう話が出たわけです。今度老人会で集まるバスは使えなくなったから、みんなバス代を集めていかななくてはいけなくなりましたということですね。バス代をみんな集める準備をしているところにちょうど遭遇しまして、そうして実際、バスが全然廃止になっているとは思いません。

たとえば、ここに数字的にいいますと、四月、五月、六月を去年と今年を比べてみますと、昭和四十九年度に四月に大型使っておりません。マイクロ十三台使っております。同じ五十年年度の四月には大型使っておりませんが、マイクロ九台使っております。また昭和四十九年度の五月をみますと、五月には大型バスを三台使っております。マイクロ十二台使っております。今年の五月は大型二台使っております。マイクロが十六台、四十九年六月をみますと、大型が二台、マイクロが十五台、五十年年度の六月をみますと、大型が一台、マイクロが十八台というように数字的に確かに減少してきているわけです。

ですから、そういうようなことが實際下のほうに降りてみますと、今回からバスが使えなくなりましたといういき方ですね。とらえているわけですが、そういう指導を市の立場としてしている

とは思われませんが、事実下のほうではそういった話で持ち切りなわけですね。ですからこれは、確かに今まで老人たちが余世を楽しんで喜んでいた。それがバスが減らされて回数が減ってくるということは老人施策の後退であるといえると思いますし、市のいき方に疑問を持ってくる人もおるわけですね。この点についてそういう指導をしたのか、どうなのか。もう一回確認したいと思います。

次に、商業関係につきましては、確かに現在の商店会等の意欲的な主体性が主軸になっていくということはよくわかります。しかし現在、無気力なといえますか、大型店に押されてあきらめムードの各小さな商店会、私のさしているのはそういった商店会に対して、ただ単なるそれを、主体性を待っているのか。その主体性をうながしていく必要があるのではないか。このように思っています。

たとえば、各商店会をコンサルタント的に調査していくそういった機構があると思います。県のほうにも。それらに対する配慮というものは非常にこれから重要になってくるのではないかと思われますが、そういうように今やればできるという方法、施策があると思うんです。商店街に対してそういった具体的に今すぐやればできる各商店会の診断といいますか、調査といいますか、コンサルタントの制度もあると思うんです。ですから、そういった制度に関してどのように思っていますか。お聞かせ願いたいと思います。

次に、海水汚染と漁業後継者の育成についてでございますが、私の調査によりますと、館山湾におきましても四カ所現在年二回

調査しております。一つは、大房のスズメ島の南方の水深十五メートルの地点でやっておりますが、今年の五月のデーターによりますと、この場所が二・四PPM。それからもう一カ所は、北条海岸の水深十メートルの地域ですが、これが一・二PPMです。三番目には、沖の島と現在の博物館を結んだ線のちょうどまん中に水深二十五メートルの地域がありますが、ここが二・四PPM。またもう一カ所は、波左間沖の水深が三十六メートルの二・三PPMの地域これらを調査しているわけですけれども、現在海水汚染による魚騒動がかげをひそめておりますが、これはただかぎをひそめているということだけであって、実際海が汚れてきておるという現状であると思うわけです。

私がお聞きしたいのは、この海をきれいにするため、国あるいは他市町村等の関係、この自治体の会議があるわけです。たとえば、東京湾岸自治体公害対策会議というのが実際あるわけです。これに館山市も入っているわけです。ですから、こういった公害を出している地域ばかりではなく、公害を出したところで魚を取らなければならない地域等々含まれているわけです。たしか館山市も入っているわけですが、こういった対策会議の中の館山市の位置というのは非常に重要になってくるのではないかと思います。ちょうど今年の一月にこの会議がたしか開かれたわけですが、館山市ではこれに参加しているのでしょうか。どうでしょうか。お聞きしたいと思います。

それから最後の問題で、市営住宅の問題ですが、かつて建設委員会でも質問しましたけれども、菅野団地で浄化槽がたびたびこわれて、ポンプがこわれてそのたびに市営住宅の人々から徴収

をして、負担してもらって直してきたという経過がたしかあると思いますが、これはその後どうなっておりますか。お聞かせ願いたいと思います。

以上の点について再質問したいと思います。よろしく願います。

○福祉事務所長（山口 一君） お答えいたします。

第一点の母子福祉会に対します補助金にかかります監査でございますが、本年の一月二十七日に実施しております。なお、監査の目的といたしましては、いわゆる補助目的に合致するような運用がなされているかどうかということについて監査いたしました、まず一応補助目的に合致しておるといような結論を得ております。

なお、第三点目にお尋ねの老人福祉センターの送迎バスの関係でございますが、この点につきましては先ほど市長のほうから御答弁申し上げたとおり、現在専用のマイクロバスが一台配車してございます。なお、市のほうで集中管理しておりますマイクロバスのほうにも回してもらおうという約束になっておりまして、現在のほうにもマイクロバス二台をフル回転でやっております、それで足りない分を民間のバスを借り上げてまかなうという形をとらしていただいております、決して利用者には不便をかけるようなことはない、このように考えております。

○市長（半沢良一君） 一中の跡地利用計画について再質問でございますけれども、一中跡地を運動場にどうかという御意見があるというお話してございますけれども、これは各方面からそういう

意見も聞いておりますので、今後意見の一つとして十分検討を加えたいというふうに考えております。

○水産課長（谷貝茂生君）　クルマエビと二枚貝の補助金の件でござ

いますが、クルマエビにつきましては、ここは生殖条件が非常にいいということで四十五年に県の指定をいただきまして百五十万放流いたしましたのはじめといたしまして、その後二年間継続いたしましたのが、自然ふ化の関係もあるだろうということで四十八年には一応休みましたが、漁民からの要望も強うございまして、四十九年からまた助成をしてみたいりましたが、最初に放流するときの時点におきましては年間百キロぐらいしか水揚げがございましてしたが、四十五年から放流するようになりましてから年々四、五百キロずつ以上の水揚げが確認されておりまして、相当増加していることとははっきりしておるわけでございますが、当初は県で半分助成してくださるということで、市で半分持ちまして、漁協負担なしで試験の意味をかねまして実施したわけでございますが、仮りに一%の確保ができましたも、その投資効果は十分だといわれております。追跡調査の結果は、これは一部を目を切りまして標識放流ということで三千匹放流したわけでございまして、その目を切ったエビが百匹近く揚がっているというそのパーセントからいえますという三%、標識の分からでも確認されておる。また、過去におきましての放さなかったときからの状況と放したときからの成績からその効果は十分確認されておるわけでございますが、一年四十八年に自然ふ化ということも考えられるということで追跡調査をまとめる段階で一応休んだわけですが、組合等の要望もございまして、四十九年からまた実施し

ておるわけでございますが、この助成は相当効果が上っておるものと信じております。

なお、二枚貝につきましては、青森あたりから買ってきて放流しておるわけでございますが、どうしても夏の温度が高過ぎて夏を越すことができないということで、越夏試験等も再三やってまいりましたが、その後輸送中の死亡率があるということで輸送に対する一部助成ということで種苗購入につきましては十分の一だけ種苗についての助成ということでやっておりますが、夏を越すことができないにしても、これは県でまとめて購入しますので、買った時点だけでも右から左におろしても損はない程度の値段でまいります。

ここで蓄養しまして、ある程度の生育も確認されておりますので、この効果は十分あると、ここで何とか毎年少しずつ入れながら、ここでこれだけのものが少しは大きくなり、そうして採算的にもやっていくことができれば、新しい一つの産業の振興という意味の放流も兼ねまして助成をしておるわけでございますが、その助成については効果としては十分あがっているように信じております。

○商工観光課長（鈴木　力君）　商店街の診断の問題でござい

ます。商店街診断につきましては、過去におきまして市内の銀座振興会あるいは長須賀商業会、館空通り商業会、キネマ通り商業会がこれが過去四十五年を中心に実施しております。

最近に至りましてはこの診断が行なわれておりませんけれどもこれにつきましては県の中小企業総合指導所で実施するわけでございまして、県独自の商業調査もいたしまして、昨年の四月に県

内商圏実態調査、それから昨年から本年にかけて商業近代化のための調査というものが県下一円並びにブロック別に行なわれておるわけでございますが、なお、商店会個々の診断といたしましては、商工会議所におきまして毎年何カ所か実施しておるわけでございます。

商店街診断につきましては商業環境の現況と商圏調査、購売力調査いろいろやっておるわけでございますが、やはり館山市の将来の商業の近代化のためにも、できれば今後実施いたしたいというふうに考えております。

○助役（畠山 伝君） 東京湾の海水汚濁のことでございますが、これにつきましては、いろいろ当地域的には安房郡市の環境対策保全協議会、安房支庁を中心といたしまして、そうした会合でいろいろ汚染防止対策につきまして話し合いを進めておるわけでございます。また、そうしたことで近くこの汚染防止についてベンフレット等も用意してPRしようというような計画も持っておるわけでございますので、なお、他市町村とのこれも今後とも防止について十分推進してまいりたい。かように考えております。

○建築課長（内藤重雄君） 萱野団地のポンプの件につきましてお答えいたします。

五月末に配水ポンプを交換いたしましたして、そして、その後一回やはり溶けにくいものがひっかかりまして故障がありました。それを取り除きまして修理した結果、現在順調に動いております。以上です。

○一七番（石井武敏君） はじめに、補助金の審議会、委員会の設置の提案につきましては、水産関係の、特に二枚貝のほうは

輸送中に死んでる。また、青森から買ってくるということなんです。私の調査したところによりますとですね。こういったものは、いわゆる水温、水質、水深というものがその育成に非常に影響してくるわけで、ほとんどそうした環境がないところに試験的にそうしたものを持ってきてやってみても、採算が合わないのは当然ではないかと思えます。

ですから、特に二枚貝というのは早くいえばむだではないかと私は思うんです。ただ、試験的にそういうものをやってみるというのではなしに、特にこういうものはびしっとした環境の中で採算が取れるというものを選んでやるべきである。そういうふうに思うわけなんです。

ですから、こういった今まで長い間補助金を各種団体に出してきてはおりますけれども、それが非常に情性にながれてきているんではないかという感じがするわけです。

ですから、母子福祉会に、もう一点お聞きますが、補助金をきちんとした母子福祉会の会があるんですから、当然その母子福祉会として補助金を受け取るべきであるわけですけれども、たまにま幼稚なミスがありまして、それが個人の預金通帳に分散されて保管されていたというようにあったように伺っておるわけです。

ですから、これはなにも、母子福祉会そのものは私はたいへんいい趣旨だと思っておりますし、補助金を出すべき団体であるし、たとえば、母子福祉会の第四条には「本会は、館山市内における母子、未亡人世帯の自立更生をはかり、相互扶助と親睦を深め、もってその福祉推進をはかることを目的とする」ということを目的

とする。」ということを目的としているわけでありまして、また非常に有意義な育てなければならぬ団体であると思うわけですね。

ですから、こういった母子福祉会等につきましては、あらゆる角度からできるだけ助言と応援をして育てていただきたい。今まで確かにミスがあったかもしれないけれども、それは幼稚な一つのミスであって、その目的からいえば確かに必要なもので、よろしく願いたいと思うわけです。

そういった際のおそらく補助金を出しておいても、各種団体に対して人事問題とか、そういう問題に関する主体性の問題について市として注文をつけたり、今度会長はだれがなったらいというそういうことまでもタッチするということはないと、私は思っておりますし、どうかそういう点で、りっぱな趣旨を生かすようにつとめて援助していただきたいと思うわけでございます。

この問題は、私も一年間様子をみまして、また来年の六月あたりにもう一回取り上げてみたいと思いますが、今回は以上にしておきます。要望にしておきますから。

それから、時間も非常にせっぱ詰まっておりますので、あらあらお答えを承りましてほ了承しましたけれども、これらの施策の一つ一つは特に住民が要望しているものであるということ、市長は銘記して、今後の対策方お願いしたいと思ひます。

以上で、質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 一七番議員君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後一時四十七分

休 憩

午後二時十一分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、一二番議員栗原一雄君。

（一二番議員栗原一雄君登壇）（拍手）

○一二番（栗原一雄君） 今回の定例会に、一般行政に対する通告による質問を行なう者でございます。

当市は、観光館山といわれながら、内容的にはこの七月より八月中旬までが主体となる夏型観光地でございます。

本年三月の定例会におきまして、市長の昭和五十年度施設方針において「特に市民生活を豊かにし、市政の基盤を確立するために産業の振興、観光の開発を最重点目標としたとき所存であります。」と、このように申されておられました。

当市は、南房総における国定公園の観光拠点として大いなる発展をとげなければならぬわけでございますが、現実には交通の拠点となっておりますが、観光通過都市であることは周知のとおりでございます。

さて、市民の安定した生活を真剣に考えるならば、経済活動の活発化こそ急務の問題であり、産業の振興は財政基盤の確立につながるものでございますので、即当市の発展の原動力となるものであり、安定した市民福祉確保の最短距離となり得るものでございますので、現在当市の千葉県及び東京を中心とした首都圏における位置づけとしては、それらの地域の人々に休養地として自然の景観を生かした周年観光地とし、週休二日制にあふわしい魅力ある都市づくりにより長期的展望に立つて発展策を考えるべき時期であろうと考えますので、すでに通告いたしましたとおり、四季型

観光都市として必要な整備促進について。一つ、植栽による観光対策、二つ、夏季シーズンにおける受け入れ及び安全対策、以上について御質問申し上げます。

なお、当市は、首都圏において立地的条件及び観光資源についてこと欠かれないところでございます。一例として、鏡ヶ浦をはじめ風光明媚な海岸線、那古観音、崖観音、城山、洲の崎灯台、四季の草花、文化財、民謡等豊富であるが、行政が前向きに全力をあげないところに観光地として売り出せない弱さがあると思います。

今後の観光対策について当局のお考えについて伺いたいと思います。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) お答えいたします。

四季型の観光都市としての整備促進について、特に植栽による観光対策、夏季シーズンにおける受け入れ及び安全対策についての御質問でございますが、今後の観光対策につきましては、観光推進上まず基本的な問題として最も重要なことは受け入れ体制の確立でございますけれども、いろいろな施策が考えられるわけでございますが、第一にやはり何と申ししても、道路、交通網の整備促進でございますので、これは国道一二七号線バイパスの早期の実現をまずはかりたいと思っているわけでございます。第二点といたしましては、国鉄の複線化の実現方を促進をはかっている。こうして、道路、交通網の整備を促進したいと考えております。

第二は、水資源の確保につきましては、観光の面でもきわめて

大事なことでございますので、水道の一元化と相まって作名ダム

の完成に当面全力を注ぎたいというふうに考えております。

受け入れ対策の第三といたしましては、環境衛生施設の整備促進につきましてでございますが、し尿処理施設の整備とごみ処理の解決と、なお各戸の浄化槽の清掃の改善指導に努力をいたしたいというふうに考えております。

第四に、自然環境の保全につきましても、観光の対象資源でございますが、国定公園内の自然保護について一そう意を用い、自然破壊や公害から自然を守りたいと考えております。この際に、植栽事業はひとつ大いにやっていきたいと、そういうふうに考えているわけでございます。

当面の観光対策といたしまして、まず観光客の誘致のための宣伝事業といたしましては県外への観光キャラバンの実施、夏季の観光祭、地びき祭、里見史跡の観光コースの策定、また観光農業の推進の上から花卉植栽事業等の宣伝事業を計画実施してあるわけでございます。

既設施設の整備につきましても、休憩所の新設、改築等整備にあたっておりますけれども、海岸の環境美化をはじめ海浜の自然公園として秩序ある管理と整備にあたり、観光資源を大事に育てていく考えてございます。

また、観光施設の誘致につきましても、当市の恵まれたよき個性にマッチした地域発展に寄与されるような施設の誘致をはかっています。慎重に対処していきたいと考えております。

最近、南房パライス地先の県有地約七千坪に労働省による勤労者いこいの村建設計画が労働省及び県から示されましたが、市

としては積極的に協力をしていきたいと考えております。

また、館山、北条海岸の養浜事業といたしましても、その他観光の進展は関係者皆さんの深い御理解と御協力がなければ実現の見通しがつきませんので、今後皆さま方の御協力を得ながら積極的に推進をはかっていきたいと考えております。

夏季シーズンにおける受け入れ及び安全対策についての御質問でございますが、海水浴シーズンを迎えまして、お客さんが快適で楽しく過ごせるよう水難防止等事故防止のため、監視体制と海水浴客の自覚をうながすことにより万全を期するとともに、海岸の環境保全につとめるよう計画いたしております。

また、特に今夏から平砂浦海岸の一部を海水浴場として開設を考えておりますが、これも地元の方々の御協力を得まして事故のないよう、さらに観光進展のため努力をいたす所存でございます。

たいへん簡単でございますが、以上をもって御答弁を終わります。

〇一二番（栗原一雄君）　ただいまの答弁でおおむね了解できるわけでございますが、これはなかなか大きな問題でございます。館山市の現状から、いわゆる財源から申し上げてもきわめてむずかしい問題でございます。必ずしも金をかけるといふことは私は観光でない、私はこのように考えております。

まず第一点でございますが、ヤシは亜熱帯植物でありますので比較的にあたたかい地方に風致樹として使われるわけでございますけれども、これは情熱的な魅力あるエキゾチックな感じを出すために、当館山市でも海岸線に植樹いたしたわけでございます。

現時点におきまして数本が枯れておりますが、これは館山の観光

イメージにある意味ではダウンさせるのではないだろうか。このように考えるわけでございます。

館山市は、歌の中でも鏡ヶ浦あるいはヤシというものを、また夕日というものが館山市の大きな今日の観光スローガンでございます。ボスター等みてもご存じのとおりでございますけれども、そういった面から申し上げますと、本年度は当初予算で八十七万円のヤシの管理費が計上されておりますが、年何回ぐらい、今日までどのようにされておられるか。お答えいただきたいと思っております。

〇商工観光課長（鈴木　力君）　北条海岸のヤシ並木の管理につきましては、現在これを委託によってやっておるわけでございますが、委託の内容といたしましては、年間を通じてまず施肥でございます。これにつきましては年間におきまして二回ほど有機質肥料、それからあと無機質の肥料をやるわけでございます。三月と六月乃至五月に実施。

次に、防除でございますけれども、防除につきましては殺菌、殺虫という両面でやっておるわけでございまして、五月、六月、九月、十月年度の初めに大体実施しておるわけでございます。

次に、かん水でございますけれども、これはやしにとりましてきわめて大事な管理でございますが、現在までにおきまして一回実施しておりますけれども、七月、八月特に夏季におきまして今後実施したい。このように考えております。

その他、除草とか、あるいは防風網の整備こういったことを管理の内容として委託して実施しておるわけでございます。

〇一二番（栗原一雄君）　現在、北条海岸に植樹されておりますヤ

シはカナリーヤシでございますが、文献によりますと、比較的耐寒力に強い。このようにいわれております。撰氏マイナス四度に耐えられる。このように辞典には書かれておりますが、もちろんヤシでございますので、館山では実際にはある程度成長したものを移植ということでございますので、この環境、館山の環境に育つヤシということになりますと、非常にむずかしい問題があるうかと思いますが、これを今日まで相当の金額をかけてまして館山のイメージアップをねらっておりますので、これを健全に育てる意味から申し上げても、管理がきわめて重要である。このように考えるわけでございます。

もちろん、ヤシでございますので、南国特産という意味から申し上げても、光とか温度、水、湿度、通風、表土あるいは耐寒力そういったものが重要ではなからうかと思いますが、やはりヤシという性質から申し上げますと、この夏に日ざしの強い日ざしを受けることも冬に耐えていく。そういった性質から申し上げますが、気がいたすわけでございますが、現在なおかつ防砂網が張っておりますが、七月、八月の時期にそういったものを取りはずすことは可能かどうか。そのへん、お尋ねしたいと思えます。

○商工観光課長（鈴木 力君） ヤシの管理の委託の契約の中には防風網の補修という項目は入っておりますけれども、夏場に取りはずすというような契約条項はないわけでございますが、今後そのようなことがヤシのために非常によろしいということでございますれば、いろいろ検討してみたい。このように考えております。

○一二番（栗原一雄君） 先ほどから申しましたとおり、ヤシは

館山のある意味では非常に大きな観光財源になっていると思えます。契約条項にないと、こういうふうにいわれておりますが、いまだ少しヤシについて勉強していただきまして、実際に私は先ほど申し上げましたとおり、強い日ざしが必要であるということ、ヤシの性質から申し上げます、必要であると思えます。そういった面をもう一度確認いたしまして、そういった面で必要ならば防砂網をはずすということをお考えいただきたいと思えます。

それから、現在北条海岸に約二キロメートルにわたりますただいまお話ししたヤシ並木の周辺がグリーンベルトになっているわけでございますが、これは現在雑草でほとんどおおわれているわけでございます。これはきわめて見苦しいということになるうかと思えます。

一部におきましては、国体が昭和四十八年度に当市で行なわれまして、花いっぱい運動以来、一部におきましてはいろいろな草花が植栽されているわけでございますが、これは市民の一つの心のやすらぎになっているのではないかと。あるいはまた観光客の心のやすらぎということもいえると思えます。これからこういった面が現在一部個人的にやられておられるが、市がこの植栽についてお考えになられておられるか。そのへんをお尋ねしたいと思えます。

○商工観光課長（鈴木 力君） グリーンベルト内の花の植栽につきましては、ただいまお話しのごさじましたとおり、地元の一部の方が国体以来いろいろと美化の面で協力をしていただいております。

あそのグリーンベルトも県と市におきまして、いわゆる海浜

公園として、公園整備事業として造成をされたわけでございます。その面から申し上げても、今後市が直接にグリーンベルト内の整備というのを考えていかなくちやならぬ。このように考えております。いろいろ問題がございますけれども、花の植栽をするか、あるいはヤシに対するグリーンベルトに芝を張りまして、芝とヤシこういうマツチした姿にするか。今後いろいろと検討を重ねまして、できれば市がみずから植栽管理をいたしたい。このように考えておる次第でございます。

〇一二番（栗原一雄君） 先般、私も経済委員会で行方視察に東北にまいりましたが、まず感じたことは、青森県の奥入瀬におきましては、国鉄バスにおいても必要次第にその土地のよさ、あるいは持ち味等を説明あるいは宣伝して下さったわけでございます。

私も帰りまして、今日までまだまだそういった記憶が頭にあるわけでございますが、当市の国鉄、私昨日国鉄に問い合わせ聞いてみたんですが、館山市内では国鉄観光バス午前中九時でございましょうか。発車のバスにつきましては館山市内は説明いたしておりません。また、降してはいないわけでございます。白浜のパークランドから先は降して説明するわけでございます。

そういった面から申し上げても、館山の行政が本当に観光館山であるかどうか。そのへんをもう一度、私確認したいわけでございますが、今日まで国鉄とのそういった前向きな姿勢でお願いしておられるかどうか。そのへんひとつお尋ねしたいと思えます。

〇商工観光課長（鈴木 力君） 国鉄に対しては、いわゆるお

客の招聘という面でいろいろ密接な関係があるわけでございますが、できる限り話し合いの場をもちまして協力を要請しておるわけでございますが、昨年から本年にかけまして二乃至三回程度そういう観光の推進の立場から協議会的なものをもちまして、会合を開いて話し合いをしております。

〇一二番（栗原一雄君） どうか、その点を積極的に国鉄等とも連絡を密にいたしまして、館山市の経済活動活発化のためにひとつ御尽力いただきたいと思えます。

なお同じく、先般の視察の中で天童市を訪問したわけでございますが、人口あるいは予算編成におきましては当市より規模的には小さいわけでございます。しかしながら、全市に旅館、ホテル、公園、おみやげものすべて将棋であり、一例といたしましては、ホテルの浴槽あるいは窓ワクに至るまで将棋の型をしております。前年度私も同じく経済委員会で山口県萩市にまいりましたが、芸妓さんは一人もいないということでございます。今日まで私は一般的には芸妓さんの数は観光のパロメーターである。このように考えておりましたけれども、萩にまいりまして、やはり町の特性を生かすということでしょうか。それがやはり大きな観光の財源となっているということをつくづく知らされたわけでございます。もちろん一般的にタクシートの運転手さん、あるいはバスの運転手さんすべてが「男なら」このように萩ではうたっております。ややもすると「毛利」このように申し上げますと「毛利侯」あるいは「毛利さん」このように市民の一般の人たちが使っております。

そういったものが実際には館山には欠けているのではないだろう

うか。このように考えるわけでございますが、先ほど申し上げましたとおり、観光館山、花の館山今日まで有名な作曲家あるいは歌い手さんそういった一流の歌手等が今日まで館山、花の館山を採用して歌ってきたんですが、何ら花の館山というイメージがきわめて少のうございます。

そういった面から考えましても、先ほどのように館山が本当に観光で生きるならば、植栽を積極的にやってもらいたい。このように考えるわけでございます。

同じく、昨年私佐渡にまいりましたが、実際的には佐渡では観光的なものはあまりどちらともかわらない。極端ないい方でございますと、皆無にひたしいわけでございますが、房州に私どもいながら寿々木米若の佐渡情話、そうしたものを思い出し、また民謡の佐渡おけさを歌うわけでございます。佐渡にまいりますと、やはり佐渡の人たちはもう佐渡おけさ一本やりでございます。それで十分観光地として全国的に知られているわけでございます。

館山は、先ほど申し上げましたとおり、きわめて観光財源が多うございます。それを何ら使っていくということができないのは、私は非常に残念なんです。

もう数年前に、NHKで新里見八犬伝をやっております。もう三年ほど前でございました。十二月に私質問しております。しかし何ら採用いたしませんで、ごく最近になりました。先ほど市長のお話を承りますと、里見観光でございます。うか、そういったものをつくるんだというお話でございますが、これはけっこうなことでございますけれども、合わせて館山が必ずしも金を使わなくても観光施設はできるわけです。

一例といまして、スポーツ新聞等をみてまいりますと、丸山のいわゆる彦兵衛のせき、これは毎回新聞に釣り情報として出ています。先般私おじゃまして聞いておったんですが、広告費は一銭も出しておりません。しかしながら来て来ていけません。こういうことなんです。約一万ヘーベでございます。うか。

館山市には実際に大きなせきがたくさんございます。今日中央ダムも完成しようという時期でございますが、たとえば、山本のせきでございますが、約三倍でございます彦兵衛せきの。そういったものを利用いたしまして、やはり館山市のヘラブナの釣り場として利用するならば、金をかけなくてもレジャー関係の雑誌あるいは新聞等が採用してください。これから四季観光に移行するためにも、そういった山本のせき等の利用というものは私は非常に重要な問題ではないだろうか。このように考えているわけですが、そういったお考えをお持ちかどうか、お答えいただきました。と思います。

〇商工観光課長（鈴木 力君） 観光客の誘致につきましてはいろいろと計画を立ててやっておるわけでございまして、ただいまお話しのごございましたとおり、花の宣伝という意味からも、昨年度から本年度におきましていわゆる花つみ園というふうなことで実施をいたしました。非常にたくさんのお客がまいりまして、非常に好評であったわけでございますが、いわゆる布沼のポピー団地ここを利用いたしましての対策を立てたわけでございますが、幸いに全面的な地元の協力を得ましてやった次第でございますが、一月から五月にかけて約二十万からのお客さんがきた。このような実績がございます。

それから、テレビあるいは新聞、ラジオ等を通じて宣伝につきましては、たえずやっておるわけでございまして、昨年から本年にかけましてはかなり回数多く宣伝をお願いしておるわけでございますので、この点につきましては御理解をいただきたいと思うわけでございます。

それからなお、比較的館山市におきまして秋のお客が少ないというようなことから、来たる九月、十月におきましては地びきによりますお客さんを考えておるわけでございます。これは旅館組合と市とタイアップいたしまして、土曜、日曜にかけまして毎週やる予定でございすけれども、これらの観光客誘致のためのことも考えておるわけでございます。

なお、ただいま山本のせきを利用した釣り堀的な面についてもお客の誘致というようなお話もございましたけれども、これにつきましてはいろいろと検討させていただきたい。このように考えております。

〇一二番（栗原一雄君）　ただいまの御答弁で、一月から今日までポビランドに約二十万人の実績があった。このようなお答弁でございます。私どもは知ってる範囲でもNHKをはじめ各社等、ポビランドにつきましては宣伝して下さったわけでございます。

花の館山というところで実績があれば、それだけの観光客の入込みがあるわけでございます。しかし、そのシーズンが終り、季節が終りますと、その間のほうがきわめて長うございます。そうした面で、ふだんやはり観光客は入らないわけでございますけれども、実際にはただいまの御答弁のように、花があればお客さま

くる。ですから、観光花の館山と、このように申しておりますので、あらゆる問題からお考えいただいても、それだけの館山に行けば花があるんだ。気候、風土はきわめて温暖でございますので、館山につきましてはフレイムをつくらなくても路地栽培が可能でございます。そういった面からお考えいただいても、もちろん本年度の予算の中におきましては郷土美化植栽事業委託料として二百九十三万八千円計上されております。しかしながら、これが館山市が、これだけが一年を通じて館山をPRしている花である。花の場所であるというものが実際にはないわけです。

ですから、これで不足ならば、私は意外と植栽につきましてはポビランドのようにそれだけ、そのシーズンにその花があればあらゆるマスコミ関係の方が、美しいものであるならば、やはりPRして下さるわけでございますので、むだの金を使うよりもそういう植栽事業を全市的に行なったほうがよいのではないかと、このように考えるわけでございます。

それから、もう一点でございすけれども、先般新聞等拝見いたしておりますと、七月一日から八月三十一日まで夏季防犯活動を行なう。このように報道されておりますけれども、岩井等におきましては、夏季観光安全対策もすべての団体を通じて懇談会をやっておられますが、館山ではそういう安全対策を設けておられるかどうか。そういった協議をなされているかどうか。お答えいただきたいと思います。

〇防災課長（羽山房雄君）　お答えいたします。

夏季安全対策につきましては、去る五月に防犯協力会の総会におきまして確認された議決事項でございますが、それをやはり協

力団体にお呼びかけをしまして、その協力をいただいて七月、八月の毎週土曜、日曜に、いわゆる観光シーズン海岸地先とか、比較的観光客の多く出る場所とか、市民の多く出る場所に防犯パレードといいますが、あるいは防犯巡回ですね。巡察といいますが、パレードとパトロールそれを兼ねてその期間の土曜、日曜これに充てます。

もちろん、協力してくださる団体の中には婦人会等入っておりますけれども、青少年相談員とか、あるいは各地区のいろいろな奉仕団体がこの中には盛られております。一応そういうことで、市民あげてこの防犯のために、防犯思想の高揚をはかってまいりたい。こういうことで実施するわけでございます。特に打ち合わせ会というものはまだ開いてありませんが、御協力いただくよう文書による御依頼はもうすでに出ております。

〇一二番（栗原一雄君） おおむね了解いたしました。最後に一つ要望いたしておきます。

去る日曜日、岩井町で海開きをしたわけでございます。東京からのお客さまあるいは県内のお客さま、地元のお客さま御招待いたしまして海開きを行なったわけでございます。その際、地びき網をやってその場で取れたものを無料で皆さんに差し上げております。これは大きなある意味では、市民あるいは観光客に対する真心のこもった海開きである。このように考えます。ただ、かっこのだけの海開きよりも内容のあるものを、これから館山市では積極的に取り上げていただきたい。このように要望いたしました。私の質問を終わりたいと思います。

〇議長（吉田勇治郎君） 一二番議員君の質問を終わります。

次、一四番議員石井輝久君。

（一四番議員石井輝久君登壇）（拍手）

〇一四番（石井輝久君） 私は、館山市政の当面しておりまして緊要なる諸案件のうち、特に重大と思われる六点につき、通告申し上げましたように順次半沢市長に對しまして質問する次第でございます。

半沢市長並びに関係者におかれましては簡明率直、前向きなる御答弁をわづらわしたいのでございます。

質問の第一点は、市政に対する半沢市長の基本姿勢についてであります。すなわち、議会制民主主義の根幹に触れる問題として伺います。

前回の臨時会におきましても私、ちょっと触れたのでございますが、半沢市長は昨年十一月市長選挙に当選されましたのち、市の職員に對しまして、本間市政を踏襲するといわれたと聞いています。にもかかわらず、すでに本間前市長が編成いたしました昭和四十九年度予算の執行にあたりまして重大な変更を加え、ために三億円にのぼる歳入の狂いを生じ、昭和五十年年度予算から繰り上げ充用をするという明らかな変更、路線の変更をきたしたわけであります。

しかるに、市長は私の質問に、本間路線を変更せずと答弁されたのでございます。あなたは、これをいつまでも変更でないとして強弁を続けるつもりでございましょうか。

実際に、本間さんは館山市立第一中学校の敷地を売り払う財産収入を見込み、しかもこれを議会に提案し、議会はこれを可決確定いたしましたのでございます。議会制民主主義のルールの第一歩と

いえまじょう。執行機関の長たるあなたに、何をいってもまずはこの議決を尊重せられ、忠実に執行されるのが議会制民主主義であることは、学識豊かなあなたがよく御承知のことであらなければなりません。

しかるに、その執行にあたり、議会の議決を尊重せずに変更を加えた。しかも、予算編成時の前市長本間さんの意思、方針と百八十度違う裏と表、全く逆の方針をあえてとり、変更しながら、路線に変更なしと答弁されるに至っては、どうしてもすなおに受けとめられないのであります。

私は考えるのでございます。三木内閣は田中前内閣とは違う。

田中前内閣はその前の佐藤栄作さんの内閣とは違う。佐藤さんはその前の池田勇人さんとは違う。それがあたりまえでありまじょう。にもかかわらず、本間市政を踏襲すると一方でいい、その内実は議会の議決を経た本間さんの方針に百八十度の変更を加え、それでいてなおかつ路線に変更なしというに至ってはロジックが合わない。私はそう考えます。

一体、市長は、市政の執行にあたって、議会の議決を尊重する意思があるのかどうかをまず伺いたいでございます。ついで、まだ本間市政を踏襲すると今後もいい続けるおつもりかどうかについて伺っておきたいのであります。

次に、議会制民主主義の根幹に触れる問題として伺いたいであります。五月臨時会が招集された直前の某日の深夜、夜ふけでございますが、議会の正副議長人事に関連いたしまして、某所で談議に加わり、某議員宅を訪問したと聞きますが、その事実の有無についてでございます。

申すまでもなく、執行機関と意思機関とは互いにチェックアンドバランスの原則に立ってこそ、議会制民主主義が成り立っていることは、学識豊かな市長さんのよく承知しているところでありまじょう。しかし、議会の人事に介入されることは私人としてならともかく、市長としては軽卒のそしりを免れないばかりでなく議会制民主主義の第一歩の原則を逸脱した行為と指摘せざるを得ないのであります。その事実の有無をお聞かせ願いたい。

また、何人かの発起人の一人として水田後援会発足にあたり、名前をつらねられた事実があるかどうか一応伺っておきたいと存するのであります。

質問の第二点は、今年度の館山市の財政の見直しについてであります。地方財政の硬直化につきましては政党政派を問わず、これが打開策として地方交付税の引き上げや、国庫補助単価の改善あるいは地方交付税率の改定、公共施設建設事業費の超過負担の解消等々が政府に要望されているわけで、これはひとり本市だけの問題ではなく、地方自治体共通の悩みであることは論をまつまでもありません。

私は、何はともあれ、現在の政府の行政、財政の方針に対して肯定的であり、また大きな不満を持つ者であります。これに対する当局のお考えをまず質問し、次に進みたいと思えます。

次に、私はかねてから数回にわたりまして歳入欠陥について、また開発公社の事業を市が代替施行されることによって後年度に支出を繰り延べる場合、潜在赤字になる点について指摘したことがありました。地方債の過大見積りについても指摘したことがありました。それは別といたしまして、今年度の地方交付税の計

上額は先の補正を含めまして十一億一千五百十四万円、これはあまりにも過大見積りにあらざるやの感を深くするのであります。

この点は、臨時会でも触れましたので、この際は答弁いただくまでもけっこうですが、特定財源を一般論として見直す必要があるのではないかと憂え、見通しを承りたいのでございます。ことに防衛庁関係予算についてしかりであります。この点、財政の見直しの要、不要を伺います。合わせて、それが事業中止、延期もしくは繰り延べにつながるのではないかと思います。その点いかがでありますか。具体的にお答えを願いたいのでございます。

また、一般財源につきましても、私はかなり過大見積りがありはしないかと考えるのでございますが、その点確信を持っておられるのかどうかも伺いたいのでございます。

それから、今年度繰り越し金一千円でありますが、まさか誤まりではないかと疑ったぐらいです。予算規模十億前後でおおよそ三千万ぐらいが常識といわれ、昭和四十二年度で三千六百五十万円、四十三年度が二千六百五十万円、四十四年度が六百五十万円、このとき私は不健全財政だと指摘したのでありますが、四十五年度は三千八百五十万円となり、やや健全となり、四十六年度で十九億九千七百余万円の予算額に対して二千万円とダウンし、健全さをいささか欠いたのでありますが、それが今年度のように四十七億を上回る予算で千円とはこれいかに。こういう予算の組み方がありますか。しかし、すでに議決をしておりますので、深くは追求いたしません。これは一体どうしたことなのか。説明を一応伺っておきたいのでございます。

財政上からみた場合、私は半沢市政はどうしても本間前市政から脱却しなければ市政の運用がますます困難になろうかと思いますが、この点いかがでありますか。質問の第一点にも関連いたしますが、財政の上からの半沢市政の考え方を承っておきたいのであります。

続きまして、質問の第三点は、公共料金の値上げについての考え方をお願いするのであります。今、政府与党は酒税で平均二二%、たばこ平均四八%、郵便料金二・五倍の値上げ案を参議院において強行可決しようとして懸命であり、国民生活に関連する重大な値上げ法案として明日の国会の会期末が目注されております。

こういった背景のもとに、半沢市長は水道料金の値上げと汲み取り料金の値上げを企てたのでありますが、市民の一部の声をよく傾聴され、水道料金の値上げ案を市会に提案するのを見合わせたことに対して、私は市長の勇断を評価するものであります。願わくば、その勇断を汲み取り料金にまで及ぼしてもらいたかったのであります。議会側の意向を入れて七月一日から施行する計画を一カ月ずらし、八月一日に延期したのもまた一応の評価といえましょう。

しかしながら、私は環境保全公社の運営にあたりまして、企業努力不足なりとはいわないまでも、その努力にいささか欠けるうらみなしとせずと指摘したのであります。ただし、申しておきたいことは、かつての民営の時代と比較いたしまして、値段は非常に安く、また従事しておられる職員の態度について、市民間にはなほだ好評を博している事実が高く評価し、改めてここに関係者一同の労をねぎらうものであります。

そこで、市長さんに伺いたいのは、一その企業努力を重ねられ
施行の時期をさらにずらしてみよう英断なきや否やであります。

ついで、伺いますが、水道審議会、清掃審議会に対して正式に
諮問し、いずれも議論ののち値上げやむなしとの結論に到達した
やに承っておりますが、そうしておきながら、かつてにその答申
の趣旨を変更してしまうことに對する強い批判があると聞きます。
これに對する見解も合わせて伺います。

次に、質問の第四点に移ります。私は当市におきましては労使
間によき慣行が打ち立てられ、先の期末手当の交渉妥結にあたっ
ても、財政硬直化の現況を認識され、組合の諸君と半沢市長とが
良識を持って二・四二可決の線を出されたことを評価するもので
あります。

私は、一方において何でも値上げ反対をとえ、一方において
くれるものは少しでも多くよこせという態度には必ずしも同調で
きないのでありますが、さて、質問したいのは、市長さんは一体
市職員をもって自治体の労働者との見方で考えておられるのか。

あるいはまた市の公務員というのは、市民全体に對して奉仕する
ものであるとお考えのもとに接しておられるのかという点であ
ります。一部特定政党の考え方がどうのこうのというのでなく、
そういうことを含めまして、私はやはり単なる労働者とはみなし
たくない。私も選挙をいたしました特別公務員を含めて全体に
奉仕する公務員、公僕、パブリックサーバントとみたい。こう考
えるのでありますが、市長さんの考えを伺いたいでございます。
こういう連帶意識から私はよき労使の慣行が生まれたと思うので
あります。

また、市内小、中学校の教職員に對する見方ですが、こ
れまた一部特定政党の考えに拘束されるというのではなく、たと
えば、かれらは日教組に所屬している労働者としてみなし、かつ
扱うべきなのでありましょうか、あるいは教壇に立つて生徒に教
える教師という、ベスタロッヂを持ち出すまでもなく聖職者とし
てみなし、そう扱うべきであらうか。私は後者としてみたいと思
うのでございますが、市長さんの見解を伺いたいでございます。

質問の第五点は、学校給食用のパンにリジンを添加している問
題についてであります。東京、神奈川をはじめ六月二十日現在で
全国の四十六にのぼる市町村が中止に踏み切っております。その
理由は、このリジンに発ガン性物質のベンツピレンというのが発
見されたと東大医学部の高橋講師が発表したのに端を発したので
ありますが、私は去る六月二十日即時中止を要望する文書を提出
いたしましたのでございます。

そこで、市長と安田教育長に、将来日本を背負うべきわれらが
子弟の学校給食に、かりそめにもがん発生の疑いあるこのリジン
の添加を中止せしめる用意がないのか、あるのかを伺いたい。

次に、昭和五十年六月十日付（五十体給第二十一号）の第五項
に「リジンの安全性に關する一部の声のために、学校給食に對す
る基本的態度を軽々に変更することのないように望みたい。」と
あるのを御承知かどうか。

また、たとえば、北条海岸の石川教一さんのお子さんは北条小
学校に通っておりますが、心配した御両親はお子さんに弁当を持
参させていると聞きますが、そのような事実ありや否やも伺って
おきたいし、合わせてそうまで心配しているこの問題にこそ、私

は政治的な英断が必要だと思つておりますが、市長のお考えを重ねて問う次第であります。

質問の最後第六点は、館山市内の海水汚染の安全性についてであります。私はいささか同僚議員とは違った観点から発言する者であります。

まず、当局は今年の三月十八日千葉県衛生学会に「大腸菌群等海水汚染の一考察」と題する発表があったのを御承知だろうと思いますが、これは館山保健所長松枝博士や、同所の木内良春氏ら数名と、水産共同実習所の松永順夫氏らの共同発表であります。

その結論とするところは、河川から海に流入した大腸菌群はほとんどが死滅してしまふから、海水浴場などには全く心配がないということなのであります。松枝博士は太鼓判を押して心配ないとしておりますが、これに対する当局の考え方はどうかをまず伺います。

そうなりますと、汐入川河口にある浄化装置はなくてもあります。高価な薬品を買って大腸菌を殺さなくても、いずれは海に入ってしまうのだからあまり意味がないといえるのであります。

ただ、国や県が指導してきたのだし、補助金を出してもらつたてまえはつきりいえない面がありますでしょう。しかし、財政窮迫のおりから学問的に明らかにしたものに對して無意味な予算化は考えるべきだと思いますが、この点、市長の勇断如何、お考えをお聞かせ願ひたいのであります。

この研究結果をさらにふえんたいしますと、ある大きな施設を館山市内の海水中に設け、その中にし尿を投棄するという発想がわくのであります。革命的ともいえる発想ではありますが、これは

無害、無公害のみならず、魚族の繁殖に貢献し、しかも隣接の町村だけでなく東京都、神奈川県などの処理を引き受けるだけの施設を施すとするならば、財源にとほしい市財政が一挙に富裕化することもあながち空想ではない。決して白昼夢ではない。これは私の見解ではなく、先ほどの松枝博士の科学的アイデア、しかも二次的な利点といつたしまして投棄されたふん尿の肥料化も可能であるとのことであります。世界でもはじめての発想であり、最近一部で提唱されはじめました海洋開発につながる重要な問題として一考の価値があると思われまふので。

○議長（吉田勇治郎君） 一四番議員に申し上げます。

持ち時間がまいりましたので。

○一四番（石井輝久君） わかりました。

この点について、市長の見解を承りたいのであります。

以上をもつて質問を終わります。簡明にして、率直な前向きな答弁を期待し、降壇いたしますが、また、答弁によりましては再質問申し上げたいと存するものであります。

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 石井議員の御質問にお答え申し上げます。

第一点、市長の市政に対する基本姿勢を問うとの御質問でございますが、本間前市長は昨年三月の市会におきまして、その施政方針の中で「私は就任以来、常に明るく豊かな文化福祉都市館山の建設をめざし、教育、観光、産業、福祉を重点に鋭意努力してまいりました云々と述べておられます。

私も、去る三月の市会におきまして、私の市政にあたる基本姿勢といつたしまして、市民生活の安定、向上をめざし、生きがい

ある香り高い文化福祉都市の実現を期し、環境の改善、教育の振興、福祉の充実、産業の振興及び観光の開発を重点に置き、市政にあたる旨の決意を披瀝いたした次第でございます。すなわち、基本姿勢において私と本間前市長との間に何らかわるころはございせん。

私は、国の政治と異なり、住民へのサービスを主体とした地方自治体においては、市長がかわることによって市政の方向が大きくかわるということがあるべきではないと考えております。

ただ、いえますことは、私は政治は選択の技術であると考えております。移りゆく社会情勢の中にあつて基本姿勢を堅持しつづ限られた財源の中で何を優先するかは人によって異なるのは、これまた当然のことでございます。ここに、市長が交代する意味があり、市民の期待もまたここにあるものと考えます。

私は、幅広く何が今最も市民の間で要望されているかを広く市民の声を聞き、その実現を期するとともに、バランスのとれた市政を行ないたいと決意いたしている次第でございます。

先ほど、石井議員がお取り上げになりました一中の校庭を売らなかつたという問題で、それが議会の意思を無視された、あるいは本間前市長との方針が違ふんだというお話がございましたけれども、議会におきましては、前回の議会におきまして御了承をいただいているわけでございます。

また、ただいま申し上げましたように、具体的な問題にあたりまして何を優先するか、それはその人によって多少の相違はあることでございまして、そういう意味では、決して基本的な姿勢においてはおわりがなかつたというふうに考えております。

また、議会の問題につきまして、議長、副議長の問題につきまして某月某日私が某議員のところに行つたというお話してございましたが、確かに事実ございました。ただし、私も館山市政、政治にかかわる者の一人として、一私人として館山市政の平和と安定を願う者でございますので、そういう意味でお伺ひいたしたわけでございます。確かに御指摘のとおり、市長として不適当だと、思慮を欠いたといわれる点については反省いたします。

また、水田後援会の発起人の一人となつた事実があるかどうかという御指摘がございましたが、市長としてでなく、私人として発起人の一人となりました。

次に、昭和五十年度市財政の見直しについてでございますが、本年度財政の見直しについては、現在時点では歳入予算に対し概算交付を入れましても約二七％程度の収入割合でございます。大部分の額が流動的でございますので、明確な財政見直しをつけることは困難でございますが、情勢といたしましては一応減額要素が強いように考えられます。したがしまして、一応八月を目安とし、予算の見直しを行ないまして、これに対処してまいりたいと考えております。

公共料金の値上げについての基本的な考え方についてでございますが、公共料金につきましては、公共的料金につきましてはできるだけ値上げはおさえてまいりたいという基本的態度でございますけれども、料金制度というたてまえから必要とするサービスの提供を充実し、かつ経営の安定をはかつていくためには、経営の改善、合理化につとめるとともに、適当な料金改定も考えていかなければならないと考えております。

し尿処理料金の値上げを延期しないかという御意見でございますが、八月一日から実施をいたしたいと考えております。

なお、水道料金につきまして、審議会の答申を得ながら、それを変更したというお話でございますが、審議会の答申もいただきましたけれども、この御意見も尊重しつつ、さらに検討を加えまして研究を続けていきたいと、改めて皆さま方に御審議をいただきたい決意でございます。

第四点、市職員並びに市内小、中学校教職員に対する基本的な考え方についてという御質問でございますが、市役所職員すなわち地方公共団体に勤務する限り、その者が担当する公権力の行使にあたる場合であろうと、あるいは肉体的労務であろうと、その差別なく地方公共団体に労務を提供する者は、憲法にうたわれておりますとおり「すべて公務員は、全体の奉仕者であつて、一部の奉仕者ではない。」という基本理念のもとに、公務員は特定の階層または集団あるいは個人の利益のため奉仕するものでなく、これらの社会的階層または集団あるいは個人から成立する国または地方公共団体の公共の利益のための奉仕者として、すなわち館山市におきましては、職員は、館山市がなすべき責めを有する職務に専念する義務と自覚を持つ者でなければならぬと考えております。

また、小、中学校教職員に対する基本的な考え方といたしましては、過ぐる参議院議員選挙以来、教職員に対する考え方がいろいろ取りざたされておるわけでございます。すなわち天職聖職論、労働者論、使命職論、労働者一面聖職論、勤労者聖職論等々いろいろあるわけでございますが、歴史的にみますと、かつては聖職

論や労働者論もあつて、戦後のごく最近に至つて専門職論が起つてきているわけでございます。

それは、教職員の職務の重要さと、その特殊性のゆえであると思われまふ。現在のわが国において、教職員は地方公務員としての身分の取り扱いを受け、国民全体に奉仕する勤労者であります。が、国民教育という高度な専門的知識と技能が要求されている職務であります。かかる意味において、知的労働者であることはだれもがうなづくことであろうと考えます。したがつて、本市内の教職員に対しまして、専門職としてのきびしさとともに、役務としての奉仕者であるとの自覚と責任を持つ、ふだんの研修により得た知識と技能をもつて子供たちとの触れ合いの中で、かれらの諸能力の伸張、練磨に精励することを望んでいるものでございます。

次に、学校給食のリジン添加についての考え方でございますが、学校給食用小麦粉へのLリジン添加については、東大の高橋講師の発想に端を發しまして問題となつておりますが、これについては六月十日付文部省からの三回の通達が新聞、その他で報道されておりますので、御承知のとおりでございますが、成長期の児童生徒に対しては必須アミノ酸組成バランスをよく整えるため、Lリジンの強加は必要でございます。

なお、この安全性についてであります。すでに昭和三十三年より食品添加物として認められ、砂糖、塩と同程度のきわめて安全性の-highなことが確認されております。したがつて、このLリジンに対する認識を高める必要がございますので、教育委員会におきまして、六月二十日の定例教育委員会にはかりまして、統

いて六月二十三日市内校長会に対し、保護者並びに子供への理解を深めるよう資料に基づいて指導いたしました。その後、一名の子供がパン給食を拒否する事実がありましたが、受け持ちを通じて保護者に説明をなし理解をいただき、現在市内小、中学校においては何ら問題も起きておりません。

さらに、この問題は、館山市単独では解決できない問題であります。その一つは、学校給食が館山、富浦、三芳の三市町村一部事務組合で実施していること、エリジンが源泉混入であることさらに学校給食用小麦粉品質規定に規定されていることなどの問題がありますが、御趣旨を尊重いたしまして慎重に対処していきたいと考えております。

第六番目は、海水汚染への安全性についてでございます。海洋汚染の原因については河川より流入する汚水と、船舶からの油及び廃棄物の排出等がおもなものとされております。

特に、館山湾では汐入川をはじめ河川による影響が最も大きいものと考えられます。これらのおもな要因は家庭下水、事業所の排水、廃棄物の不法投棄等により直接または汚泥化され排出されるものと思われまゝす。

これらの防止対策といたしまして、河川水の測定のほか、おもな事業所の排水等について適宜検査を行ない、その改善につとめるほか、河川への不法投棄の防止等につとめております。また、夏季にはおもな河川に滅菌装置を設置、河川水の浄化をはかつております。

なお、さらに環境庁発表の館山市関係の海水浴場は、いずれも快適の折り紙がつけられております。

さらに、石井議員から御質問のございました松枝保健所長さんの研究のことについてでございますが、私もりっぱな研究だと考えますし、一般的にいいまして、私は学者の研究を非常に尊重いたしたいと思っております。しかし、エリジンにつきましての高橋講師の発表にいたしましたも、それが学界の定説として認められたものではございませんし、やはり行政というものは安定性が必要ならばならないというふうに考えております。本日きめたことを、あるいは今まできめたことを、実施してきたことを、ある一人の学者の学説が出たからといって、たとえそれが正しいとしても、学界の定説として認められない限り、それを直ちに今までの施策を否定することはできないと考えております。その意味で、確かに疑問を、個人といたしましては疑問を感じておりますけれども、行政としては従来どおり滅菌装置を使うつもりでおります。

以上、御答弁申し上げます。

〇一四番(石井輝久君) 再質問をいたします。

質問の第一点につきましてでございます。先の臨時会におきまして、すでに一たんは質問し、問題に触れておりますので、市長さんはおおよそそのような御答弁をされるものとひとそかに期待をしたわけではございませんけれども、考えておったわけでございます。本間市政を変更されないというお考えであるという御答弁が返ってくると考えておりました。

けっこうでございます。ただ、先にも指摘申し上げましたように、とにかく当初予算、昭和四十九年度当初予算で議決をされたその執行にあたりまして、とにかく重大なる変更を加えているといふこの事実が否定できないと思うわけでございます。それ

がすなわち三億円の繰り上げ充用となってあらわれてきたと、私はこう理解しておりましたわけでございます。しかし、それ以上は平行線でございますので、質問は一応打ち切りますし、また市長がかわることによりまして市政がぐるぐる方向がかわるべきではないという市長さんのお考えには必ずしも反対する者ではございません。行政というものは継続性ということでございますのでその点は私もある程度肯定する者でございます。

それから、市長さんの御答弁の中で一中の敷地に関連しまして選択ということばがございます。確かに優先の順位はその責任の衝にある人の判断によって、いわゆるニュアンスが若干違うかもしれないませんが、私の理解では繰り返すようでございますが、これは重大な変更であったということでございます。

それから、議会制民主主義の根幹に触れる問題として、私はこの問題を提起したのでございますけれども、御答弁にありますように、それは具体的には繰り上げ充用をされたのでございますが一たん議決されたものを再び重大なる変更を加えるために議会に提案され、それが議決された。これはルールが踏みじられたわけではなくて、重ねてルールを踏んでおるわけでございます。

私が申し上げましたのはそうではなくして、非常に重大な決意をして財産売り払いという議題を提出し、それが議会で議決をされたものに対します重大なる変更という点で、これは市長さんと考え方が平行でございますから、この点はこれをもちまして打ち切ります。

それからもう一点、議会制民主主義の根幹に触れる問題といったしまして、正副議長の人事介入の点を取り上げたのでございます

が、その事実ありという市長さんの御答弁でございます。しかも思慮を欠いていた点があったとしたならば、反省をするという御答弁でございますので、私はその点は了承いたします。

それから、水田後援会に私人として発起人の一人として名を加えたということでございます。いろいろ批判をすればあるでございましょうけれども、この点は答弁を了承いたします。

それから、市財政の見直しの点でございますが、不確定要素が多くて流動的であるので、八月頃、減額要素もあるので見直して対処したいという御答弁であったように承っております。見直しの点は了承いたしました。

しかしながら、具体的に私は、国の行、財政に対する方針については私自身批判的であり、不満でありますけれども、当局のお考えはいかがでございましょうかという御質問を申し上げたはずでございます。答弁漏れでございます。

それから、地方交付税の、先に補正を含めまして十一億余りの計上、これは過大に過ぎやしないかという具体的な質問でございますが、この点も答弁漏れでございます。

特定財源の項で質問で、具体的に防衛庁関係等におきまして将来の見通しを具体的に答弁願いたい。これを答弁漏れでございます。

それからさらに、重大な点として御指摘申し上げました当年度予算繰り越し金一千円、これはかつて例がなかったものとして、私は非常に不健全な財政の予算の編成であると、このように指摘を申し上げたのでございますが、この点も答弁漏れでございます。

それから最後に、市の財政上、半沢市政は前本間市政の財政の方針を脱却しないと、運用がますます困難になるであろうと、こ

これは財政上の問題でございます。精神じゃなくて、と御指摘申し上げたのでございますが、これに對ししても答弁漏れでございました。

それから、市の職員並びに市内小、中学校の教職員に對します基本的な考え方につきましては答弁をわざわざしたわけでございませうけれども、さすがに市長さんの非常に、何と申しましょるか。御理解ある、しかも幅の広いお考えに接したのでこの点了承いたします。

市の公務員は全体の奉仕者でありまして、特定の階層に奉仕するものではないと、全体の奉仕者であるという理解を示され、かつまた教職員の考え方につきましては、市教育委員並びに県教育委員の長い体験を持っておられます半沢市長さんにおかれましては、その深い造詣を示されました。国民全体に奉仕する高度な専門職であり、知的労働者であり、奉仕者であるという御見解を示されたと思います。この点了承いたします。

公共料金の問題でございますが、私環境保全公社の運営にあたりまして、企業努力が不足しているというのではなくして、そのうらみなしとせずというような表現を使って一その企業努力を重ねられ、八月一日以降をさらに延期する御意思がないものかどうかということでございました。企業努力の点につきましても一度再答弁をわざわざしたいと存する者でございます。

それから、リジンの問題でございます。私の質問中、かつて発生した事実でその後解消されたという御答弁がございましたのでその点は了承いたします。すなわち、学校に弁当を持って行った児童があつたやに承っております。その事実があつたけれども、

父兄の理解を求めて現在はそのようなことはないということでございます。その点につきましては私、了承いたします。

それから、質問の趣旨を尊重して将来対処したいということでございますので、その答弁の、それこそ御趣旨はわかるのでございますけれども、いずれにいたしましても、私は学界の定説化されない限り行政にそれを持ち込めないものであるという御見解に對しましては、いささか反論をしたいと思つてございます。

たとえて、申し上げますならば、足尾銅山のあの公害でございます。それから最近になりましたようやく裁判の結果勝ち得た水俣病の訴訟でございます。そういったことからいたしまして、官僚機構と申し上げてはまことに恐縮でございますが、市の行政でもおそらくそのような御答弁がはね返るであろうということは、私も予測はしておたのでございますが、しかしながら、こと人命に關する問題でもあり、かつまたすでに全国で五十の市町村を越える都市で、とにかくリジンの添加の利用を中止しているという事実を指摘して、一その前向きな対処、御検討を要望してこの点は要望だけで了承いたします。一その善処を要望いたします。

それから、海水汚染の問題でございますが、これは館山湾の、あるいは館山湾だけでなく、館山市全域に及びます海水の大腸菌による汚染は、これは快適であるという折り紙をつけられたというところでございます。そのとおりでありたいと思つてございます。

それから、松枝博士の研究を将来尊重していきたいという御答弁でございます。尊重して一ときも早くそれを市の行政の中に持

ち込んで具体的に、前向きに前進をしていただきたいと思うんですが。

それから一点、これはもう御答弁の気持としてわかるのでございますが、汐入川の河口の浄化装置につきましてはすでにできていますのでございます。今やめるといってもなかなかできるものではないかもしれませんけれども、これまた私は不要の予算、もっとあえて申しますならば、冗費であるというように理解しております。ただ、見解の違いがございますので、この点は前向きに善処されることを要望いたしまして了承いたします。

以上、再答弁をお願い申し上げます。

○市長（半沢良一君） 御答弁申し上げます。

御質問の第一点は、答弁漏れも含めまして第一点は、国の行、財政制度に反対だが、市長はどうかという御質問でございますが私もまだ勉強が不十分でございます。国の行、財政制度につきまして十分研究しているとは申せませんが、確かに矛盾を感じることがございます。こうしたことは、私個人の力で直せるものではないので、午前中の御答弁に申し上げましたように、市長会なり、あるいは県連じまして、全国の市長会あるいは県、関東そうした市長会を通じて、国に働きかけて要請をしていきたい。このように考えております。

第二点の地方交付税の計上額の問題でございますが、これは財政課長のほうから答弁させます。

防衛庁予算について減額の要素がありはしないかというお話でございますが、確かに当初予算に比しまして内示は幾らか少のうございましたが、これについては先日防衛庁に出かけまして

極力ふやしてもらう。元の予算に返してもらい以上にふやしてもらいたいというように考えて運動を続けております。なお、細かい点につきましては教育委員会と水道課のほうから御答弁申し上げます。

繰り越し金の問題につきましては、これも財政課長のほうから答弁をいただきます。

本間財政を脱却する必要があるのではないか、転換をはかる必要があるのではないかとのお話しがございしますが、転換ということば、あるいは脱却ということばにあたるかどうかわかりませんが、本間前市長さんが市長在任当時と、私が就任いたしましたからでは、国全体の経済情勢が大きく転換をいたしているわけでございまして、そういう意味で、ここで健全財政を敷かなければいけないというふうには考えておりますが、それが本間財政からの転換といえるかどうかは、それは御判断におまかせいたします。保全公社の企業努力につきましては、衛生課のほうから御答弁申し上げます。

○財政課長（長谷川広治君） 交付税が過大見積りではないかとという御質問についてお答えを申し上げます。

先ほど、市長から答弁を申し上げましたとおり、本年度の財政関係の数値が七二、三％流動的な数字でございます。したがって、明確に申し上げることはできませんが、交付税の今までの経過等から考えましてプラス、マイナス普通交付税におきまして五千万程度の差ができるんじゃないか。それから特別交付税におきましては、現在の状況がそのまま推移すれば、若干の増は見込まれるんじゃないかというふうに考えられますが、いずれにして

もこれは最終時点が明年の三月のはじめでございますので、それまでの間にそれぞれ検討もし、対処申し上げていきたいというふうに考えておりますが、八月の初旬に交付税のうちの一部がおおよそ積算されますので、八月の財政見直し等に関連をいたしまして、その上で対処をいたしたいというふうに考えております。

それから、一般財源に過大のものが無いということでございますが、市税につきましては現在の時点で申しますと、各税目間におきましては多少の増減はあるかも知れませんが、市税全般としては年度最終になりました段階では、ほぼ予算どおり収入可能ではなからうかという見通しをいたしております。

それから、一般財源のうち、あと大きなものでございますが、現在の時点ではほぼ予算どおり収納できるものが大部分でございますが、ただ一つ、競輪関係の収入を二億二百万程度計上いたしてあるわけでございますが、これはいつもの議会でも申し上げるんですが、お天気の良い、あるいは騒動と申しますか、トラブルがあるとか、そういうことで収入はあっても大きな差が生じてまいります、今のところ、そういうものはほぼ見通しとすれば収入になるんじゃないかというように考えております。

それから、繰り越し金の関係でございますが、御案内のとおり五十年年度の繰り越し金として一千万と申しますか、千円計上いたしてあるわけでございますが、これは御案内のとおり、四十九年度会計から五十年度に繰り越される額が幾ら収入になるかという数字でございます。したがって、四十九年度は繰り上げ充用をいたしましたので、繰り越し金はないわけでございます。ただ、編成の時点が三月以前でございますので、あった場合の予定とい

たしまして、いわゆる予算の様式でいう存目と、科目を残すための千円を計上しているわけでございます。以上でございます。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 教育関係の防衛庁予算について申し上げます。

教育関係の防衛庁予算は、一中の防音改築工事と、二中の防音改築工事関係でございますが、これらに關係します予算計上するにあたりましては、国の指導を得まして予算計上したものでございます。

過日、両方改築についての国庫補助金の内示がございました。

その内示をみますと、大体ここに予算計上しました額よりも二〇%見当の減少と、少ない額でございますが、これは予算編成時点において見積られました工事費そのものと、現在国が仮算定しております工事費との差がそこに示されているものでございます。歳入の減少とともに歳出の減少が計算されるわけでございます。

御参考までに申し上げますと、補助金の交付率は、私ども国の指導を得まして、一中にありましては七〇%、二中にありましては六三%の補助率をもって計算しているものでございます。

○水道課長（大嶋重義君） 私どもの水道の拡張事業についての防衛庁の補助の關係を申し上げます。

五十年度におきまして、これは内示があったわけでございますけれども、防衛庁の補助におきましては、私どもの予算に對しまして充足が九〇%でございます。それで、市の三カ年継続事業でのものは一応五十一年度で完成ということで予算をそれぞれ年度割にして計上してあるわけでございますが、これに對しまして、防衛庁は単年度の補助でございますので、五十一年度以降のもの

については完成年度幾らとか、五十一年度に幾らとかまだ正式に内示はございません。

それで、予想されるだろうという工事費につきましてみまうという、私どもの五十一年度に完成に対しましての防衛庁の補助の充足率は約六一％でございます。ですから、あと約四〇％近いものが五十一年度以降になりはしないかという見込みでございます。以上でございます。

○助役（畠山 伝君） 汲み取り料の件でございますが、これにつきましてはいろいろ御意見も伺っておりますし、御指導いただいておりますが、なお一そう企業努力は重ねてまいりたいと思っておりますが、上程申し上げますから値上げいたしましたし、まだまだ不足額の解消にはほど遠いものがあるわけでございますので、申し上げましたとおりで実施していただきたいと考えておりますので、よろしく。

○一四番（石井輝久君） もう一べん質問申し上げます。

地方交付税、市税等は年度まだ当初でございますので、きわめて流動性があり不確定であるということは十分承でございます。ただいまの答弁で最終的にはほぼ予算どおりになるであろうという御答弁でございます。そういうことを期待いたしましたして、この点に関する質問は打ち切りますが、私は、いいでしょう。その点は打ち切ります。

それから、防衛庁関係の予算、一中の防音校舎、二中の防音校舎、また水道いずれも、学校にありましては二〇％の程度、水道にありましては一〇％の程度、合わせまして三九％の程度、非常に当初予定いたしましたものがかなりの程度減額されております

ので、この点事業の繰り延べあるいは一部中止そういった見直しが将来、八月でございましょうか、行なわれると思っておりますが、この点につきまして、もうちょっと具体的な見直しをお答え願いたいと思います。事業繰り延べあるいは一部中止等に関してでございます。

それから、繰り越し金に対します一千円ということに関する財政課長さんの御答弁でございます。これは財政課長さんの申されましたのは、繰り上げ充用を可決した時点で、五月三十日の午後四時頃の時点で一千円ということならわかるんでございますけれども、関連いたしますけれども、これが可決された時点というのは昭和五十一年度の当初予算が可決された三月の時点で一千円というところでございます。繰り上げ充用でなくなったから一千円になったんじゃないんです。カラ予算をすでに三月の議会に上程したということになりはしませんか。しかも、五月末に繰り上げ充用を予定してから予算を千円上程した。かって、繰り越し金で六百万の記憶がございしますが、六百万を割った事例がございましたでしょうか。この点お伺いいたしまして、不健全財政であるということをお私に申し上げたいのでございます。この点に対します御答弁をわざわざわしのでございます。

それから、リジンに関します質問のうち、市長さんの御答弁は先ほど申し上げましたとおり了承いたしました。が、私、名指しで教育長さんの答弁をわざわざわしというのを申し上げますでございます。この点、今度は安田教育長さんの答弁漏れでございますので、ひとつ御答弁をお願い申し上げます。

以上、三点でございましょうか。再質問申し上げます。

○教育長（安田豊作君） 市長から申し上げたとおり、善処するということですが、具体的には先月の二十八日に県下の市町村教育長会をもってこの問題について討議する予定でありましたけれども、当日文部省で給食審議会が行なわれたので、その結論をもって本日行なっております。本日は私こっちに出来ましたので、給食センターの所長が行っておりますけれども、その結果をもってさらに五日の日に給食センターの教育委員会を開いて検討したい。こういう手順を考えております。

考え方としては市長の答弁のとおり、文部省の資料をもととしながらも、なお不安を与えてはいけませんので検討してみたい。こういうふうに善処していきたい。こういう意味でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 申し合わせ時間となりましたので、以上で一四番議員君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後三時五十三分 休憩

午後四時 十八分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、一五番議員辻田 実君。

（一五番議員辻田 実君登壇）（拍手）

○一五番（辻田 実君） 先ほど来、いろいろと質疑がなされたわけでございますけれども、私は現在館山市で当面している非常に大切なこと四件について御質問を申し上げたいと思うわけでございます。

まず第一に、昨年来の不況は今年に入りましてもますますひどく、なお深刻になってきているようでございます。市内の中小企

業並びに商店の経営は非常に苦しくなっております。金融の引き締めで景気を抑制したものの、館山市においては逆に金融の道が開かれてきたにもかかわらず、仕事量や商品の売り上げが落ちてしまい、金を借りる人が少なくなってきたような現状でございます。このことは、今行なっておりますところの県並びに市の制度資金の利用状況等に顕著にあらわれているように思うのでございます。

一方、物価高は相かわらず上昇を続けております。政府の物価指数は相かわらず上向きで、年間一〇%におさまるかどうかというところが今非常に論点になっておるわけでございます。現状からいって、やはり一〇%におさえることは非常にむずかしいだろうという国民の心配は非常に高いものがあるわけでございまして、こうした中にありますけれども、実際に地方都市にまいりますと、金融難等から商店、中小企業等においてはダンピングがみられまして、多少物が安くなっておるという面はあります。

しかしながら、今いったように全般的には非常に物価が高騰しているわけでございまして、特に公共料金等の値上げが非常に高くなつてきております。さらには大企業製品の自動車、電気製品こういったようなものがかかなり大幅な値上げになってきておりますので、市民生活はかなり物価高によって抑圧されておるといふように考えられるわけでございます。

こうした中において、市民は物価が少しでも安くならないのか。収入はだんだん減ってきてどうなるだろうかという心配が今一番大きな市民の課題になっているわけでございます。

そういう中において、館山市で行なうところのいろいろの事業

に對するところの料金の値上げというものは、こうした市民の要望に逆行するものになるわけでございます。育成牧場並びに鳩山荘、汲み取り料などの値上げが予定されておるわけでございまして、このことは確かに企業会計の面からみていけば必要なことであるけれども、しかし市政という観点から立つならば、今むしろ物価を抑制し、そして市民生活を安定させるということが一番大切なものだというふうに思うわけでございます。

施政方針の中で、市民生活を市政の根本理念としておりますが、現況のスタグフレーションの激しい中で、市民生活が優先されるのか。財政の赤字をしなければならぬのか。こうした観点に立った場合に、むしろ財政の赤字ということが先になっておるようでございます。このことは卵か、鳥かという論争でございます。するけれども、少なくとも財政の赤字を解消するという面に重点が置かれますれば、と同時に財政の赤字の解消はどのぐらいの期間で解消し、その後においてはどのような問題についてどのようなしていくか。市民生活の問題についてはどのように具体的にしていくかという裏づけが明らかにされる中において、この財政の問題は取り組みなければ市政としては非常に大きな問題を起こすのではないかとというふうに考へるわけでございます。特に、施政方針の中で「できる限り財政を精査するとともに経営の努力をいたし、住民負担の軽減に努力したい」と述べられていますけれども、具体的にこうした方針はどのような形で生かそうとしているのか。その点についてお伺いをしたいわけでございます。

二番目に、下水道対策でございます。終末下水道がない現況の中では、排水のほとんどがどぶを通して川に流れ、やがて海に流

れ込んでいくのが現状であるわけでございます。

その結果、特に汐入川の川底や館山湾のよごれが非常にひどくなっております。この状況はきれいな海を実現することと相矛盾することであり、このまま放置してまいりますれば、いかなることを申し述べてもその解決にはならないわけでございます。

排水が川まで流れ、そしてこれが海に流れていくというところはまだよいにしても、実際には各家庭の排水がどぶに流れ、そのどぶが行き詰まってしまつてかなりの公害を部分的にしろ、市内の何箇所かにおいて出ているわけでございますけれども、こうした問題についてはどのようにして解決されるのか。このことは私は非常に大切なことだというふうに考へておるわけでございます。

私は、市長が行政は選挙であるということを広報六月号で述べておりますが、この定義は私ははじめて伺うことばでございます。先ほどの石井輝久議員の質問の中におきまして、限られた予算の中で何に使うかということとは選挙の問題だということでもって市長は行政というものは選挙だということを強調されております。私は、館山市は少くとも今日民主主義を基本としたところの市政を行なっております。そうして民主主義を行なう市政の中において最も大切なことは、シビルミニマムであり、ナショナルミニマムであると考えております。生活に必要な最低限のものは何か憲法に定められたところの文化的な最低生活とは何か。今館山市の行政がそれに立っておるか、立っておらないかということが政治の根幹でございます。

選挙ということばそのものはどういう意味を持つかわかりませ

んが、その相對することばというものは切り捨てということがそのことばの中にあるわけでございます。そのことばをどのようによ用いておるかかわからないけれども、行政のある面は切り捨ててもある面を取り上げてやるんだということばにはならないか。

そして、先ほど来出ておりますところの本間市政十二年間の中においてはいろいろと論議されました金があつても、なくても、市民が水の問題、どぶの問題、道路の問題でも困つておると、そして市民生活には欠かせないこれだけの限度のものを割つたものについては、借金しても、何をしてもこれをやらなければならぬ問題だという形の中において多くの事業が推進されてまいりました。日本の行政というものはそういう中で行なわれております。

館山市の中においても水問題、さらには今いった下水の問題、学校の老朽化の問題、こういう問題は市民生活、教育を行なっていく中において、その最低基準に達しておりません。これは何とかやらなければならぬ。これをも選択というよりな形の行政があり得るということであれば、これは全くもつて机上のものであり、血の通つたところの、市民との直結した行政というふうにはあり得ない。私はそういう感覚をもつて行なわれるところの政治であつたのではないへんなことになるというふうに思います。

大名政治の中において一定の金がある。金がこれだけしかないから、これだけおまえに充てよう。これに充てようという市政ではございません。もっと市政はきびしいものがあるわけでございます。そういう面について、この広報にのせられているところの政治は選択というのはどういうことを意味するのか。

そういう観点に立つて、先ほどの下水の問題は選択の問題であるから、金がなければやらないということなのか。金がなくても起債なり、借入金そういう中で行なわれるところの開発公社の設置によつて、肩がわりしてでもこれを補つてきているという今までの政治姿勢はどうなるのか。私は、このことはたいへんな問題だというふうに思うわけでございます。こうした観点に立つて私は水問題というものを考えてもらわなければならぬんじゃないかというふうに思うわけでございます。毎年市民を悩ましておるところの夏の水問題は今年はどうなるのでしょうか。具体的に教えていただきたいと思うわけでございます。

と同時に、水問題というのは水資源の問題なのか、それとも施設の問題なのか。それとも運営の問題なのか。具体的にお伺いしたいわけでございます。

先般、文教委員会等においてはかなり料金の問題等取り上げまして、運営問題に重点を置かれておつたようでございます。さらに施政方針、その他からいつて作名ダムを建設することによつて水問題、資源問題としては解決できるんだというような印象がうかがわれるわけでございますけれども、こうした点についてはどのようにお考えになっておるのか。お伺いしたいわけでございます。

そうして、私は市の統計資料等に出ておりますところの年間給水量というのはどのような形で把握されておるのか。水資源としての年間給水量というのはどのような形で把握されておるのか。そして一日の最大給水量というその数量はどのようにして確認されておるのか。と同時に、一日当たりの給水の施設能力というの

は点検されておるのかどうなのか。この点についてお伺いをした
いわけでございます。

四番目の問題といたしまして、農業問題についてお伺いをいた
したいと思ひます。今日、館山市におきましては減反政策の推進
により農地の減少がめだっております。最近では農家戸数が毎年
六十世帯前後が減っております。農地におきましては五割の減少
をみておるのでございます。すなわち、昭和四十五年二十四万八
千三百三ヘクタールあったところの農地が、昭和四十九年には二
十一万五千六百八十九ヘクタールでございます。したがしまして
算術的に計算しましても、この五年間に三万二千六百十四ヘクタ
ールの減少になっておるわけでございますから、大幅な減少が
この五年間にあるわけでございます。このように農地が減少して
おります。

家畜につきましても、乳牛におきましても、大体ここ四、五年
の間、一割程度の乳牛の頭数が減っております。豚の飼育におき
ましては約三年間で半数ぐらゐに減っております。館山の生産豚
の頭数でございます。鶏におきましても、ここ三、四年の間に約
半数も飼育頭数が減っております。

このように、ここ三、四年間におきましますところの農地並びに家
畜の減少はかなりひどいものをもっておるわけでございます。す
れども、市長は施政方針の中において「恵まれた自然条件、立地
条件などを生かしながら農業、漁業の振興に努力していく」とい
うことがいわれておるわけでございます。

このように、農業の根幹とも思ふべき農地の減少、家畜の減少
をしていく中において、どのような特性のある農業を考えておら

れるのか。この点についてひとつ具体的に明示していただきたい
と思ひわけでございます。

最後に、館山農協の問題でございます。聞くところによります
と、数年前に王子不動産との間にいろいろな刑事事件を起こしま
して、現在五億五千万にのぼるところの負債請求が館山農協に対
して王子不動産から訴えられており、これらの裁判が行なわれて
おるところは、すでに御承知のとおりでございます。

これに対して、館山市の多くの農家の方たちが非常に心配して
おります。農協はどうなるのかということ、さらに農協の職員
の多くが五億からの請求をされてこれをどうするのかということ
で、非常に浮き足だっておりますことは事実でございます。今年
の夏季の期末手当におきましても、こうした問題があるので期末
手当の減少等が行なわれております。非常に職員は不満を持って
おるわけでございます。

館山市の農業を再建していくにあたりまして、館山農協がこの
ような状況になって、どのような形でもって再建ができるのかど
うか、お伺いしたいわけでございます。

昭和四十一年、館山市は本間市長が当時農協合併の促進委員長
になって、そうして多くの問題を克服しながら、非常に日夜にわ
たりまして農家に向いていって努力した。いろいろ反対やなん
かあったのを押し切って統合に踏み切って、そうしてその間に多
くの予算の補助等も行なってきたところでございます。

その後の議会等において、本間市長は館山農協は館山市が生ん
だところの農協だ。これを通して館山市の農政の振興をはかりた
いということをおいておるわけでございまして、こうした面にお

いて、その根幹たるところの館山農協がどのような状態の中において、今まで館山市はどのような指導をし、どのような観点でこれを見守り、今後この問題をどのように解決していくのかどうか。本間市長が生みの親といわれるようなこの農協、これに対してどのような再建対策を考えておるのかどうか。この点についてお伺いいたしまして、私の質問を終わりたいと思います。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 御答弁を申し上げます。

質問の大きな第一点は、一連の料金値上げについてでございますが、第一点は、不況と物価高での料金の値上げのねらいは何かという御質問でございますが、基本的には公共的な料金の値上げは避けたいと考えておりますが、これをそのまま推移させますと、各事業とも多額の赤字額が累積されていくことになりまして、かつ一般会計からの繰り入れにも限度がありますので、やむを得ず改定しようとするものでございます。

二番目に、市民生活優先の基本理念と一連の料金値上げは矛盾が多き過ぎはしないかということでございますが、市民生活を高めるための事業をより多く選択し、実施していきたいという市政運用の根本理念にはかわりはありませんが、先ほど申し上げましたとおり、料金制度を採用しております事業については、市民生活優先という根本理念をふまえながら、経営の安定ということを考えなければならぬので、事業の現況と課題を十分検討いたしまして改定したいと存じ、今回提案いたしましたわけでございます。

第三に、住民負担の軽減とは具体的にどんなことか、明確にさ

れたいということでございますが、一つには、住民の負担が法令等によらないもの。二つには、負担すべきであるが、自主的な考えでこれが軽減策の実施できるもの。この二つに対し、それぞれ軽減の方策を講じていきたいという考え方でございます。一つ一つの実施につきましては、そのつど財源事業を中心に各般の事情を検討いたしまして、漸次可能な限りそのワクを広げていきたいと考えております。

次に、質問の大きな第二点は、下水道対策についてでございますが、その一つ、たれ流しの下水を当面どのようにするかという御質問でございますが、本市はまだ公共下水道を設置しておりませんので、家庭の雑排水等を本来雨水排除を目的とする側溝や水路などに放流することを余儀なくされているのが現状でございます。当面、公共下水道を設置するまでの間は、環境衛生の面から地元住民の御協力を得て側溝、水路の清掃等維持、管理に十分つとめてまいりたいと思います。

第二は、側溝と排水の不備をどう処理するかという御質問でございますが、側溝や水路等の不備のものについては逐次実情に合うように新設、改良、補修を行っておりますが、今後も住民の御協力をお願いしながら整備をしてまいりたいと考えております。このような下水処理の抜本的な対策は、公共下水道を設置することにより雨水及び汚水の適切な処理をはかる以外にないものと考えております。

質問の大きな第三点は、市民の水問題についてでございます。これは関連がございますので一括してお答えいたしたいと思います。本市水道はその基本となる水源がとほしいため、水道事業

の運営に大きな障害となっております。したがって、御質問の夏季水不足の問題の根本解決策といたしましては、水源の確保が唯一最大の方策でありますので、この対策として昭和四十九年度から三カ年継続事業で作名ダムの築造工事を基地周辺整備事業として防衛庁から補助金を得て実施いたしております。

作名ダム完成までの対策としては、各水道施設の機能を最大に運営することはもちろん、市内の各水道が管末において接続してございますので、水量の過不足の状況に応じて給水の効果的な運営をはかるとともに、三芳水道からの最大限の受水により需要水量の確保につとめる所存でございます。

いずれにしても、本市水道にとって作名ダムの完成こそ水問題解決のかぎでございますので、一日も早い完成を目標に全力をあげて努力をいたしております。

質問の大きな第四点は、農業政策についてでございます。第一点は、農地の減少、家畜の減少する中で特性ある農業の内容はどんなものか。具体的に示してもらいたい。こういう御質問でございますが、確かに御指摘のように農地、農家数、家畜等の生産手段は、成長経済のあおりで減少傾向にあることはいなめない事実でございます。若干農業の地位の低下はまぬがれないところでございますが、しかし、市の基幹産業としての地位は失ってはおりませんし、むしろ今後ますます振興策を講じ、充実していくことが農政の使命であることを痛感するものでございます。

そこで、本市は遅れている土地基盤整備事業を中心とした大型機械の導入を促進して、労働力の省力化や、技術の改善をはかって、生産性の高い農業を確立することが目標であらうと考えます。

このためには、相当大型の投資を伴う資本整備の充実が必要となりますが、限りある農家の個人財力ではきわめて困難でありますので、当然国の施策に合致した制度の中に組み入れて、おおむね七五%前後の助成をおおきながら達成してまいりたいと考えております。幸い、四十七年からは市の九重、館野地区及び那古、北条地区一帯県営圃場整備事業が約七百五十ヘクタールを目標に着工の運びとなり、現在まで百五十九ヘクタール施行されております。さらに、このような合理化された大型圃場に見合う大型機械導入によって農業近代化をはかる第二次構造改善事業が五十年度を初年度として発足をみております。

また、南部の神戸、西岬地区では同じく四十七年から自然休養村事業として十八ヘクタールの圃場整備が実施され、本年度も五六ヘクタールを予定してございます。

ここで、私が最も懸念いたしますことは、このような圃場整備事業あるいは農業近代化を達成するための関係農家の理解と目標達成意欲の盛り上りが欠けてはとうてい実現が不可能でございますので、行政にたずさわる者として、関係農家の啓蒙と理解を得るための努力を結集いたしまして、逐次近代化達成を実現してまいりたい所存でございます。

このような市農業として現時点で考えられます方途としては、米を中核とした複合経営型等が理想でございます。本市としては米プラス野菜百五十アール、米プラス花卉百二十アール、米プラス果樹二百十アール、米プラス酪農二百アール、牛十一頭、また専業経営としては花卉専業三十アール、酪農専業百アール、草地二百アール等の自立経営農業を目標に掲げ、おおむね年収三百万

から四百万円達成をポイントとして努力してまいりたいと考えております。

第二に、館山農協の問題でございますが、この実情はこれまでの新聞報道でほぼ正確を伝えているようでございますが、組合員の経済を預かる農協の不祥事としてきわめて遺憾にたえないと思っております。この事件に関しては、農協内部に早くより対策機関を設置するほか、過ぐる二月の農協総代会に詳細報告され、かつ現在、王子不動産と法廷で係争中であると聞いております。

いずれにしましても、市といたしましては、早く責任の所在を明確にし、組合員に損害がかからないような解決を望んでいる次第でございます。

以上、御答弁申し上げます。

○水道課長（大嶋重義君） 水道関係につきまして二、三の補足を申し上げます。

年間給水量はどのように把握するかということが第一点でございますが、これにつきましては、私どもは各水道の施設の年間の給水実績によりましてこれをおさえてまいります。ただし、これは市の水道の中でも中央水道におきましては、この四月から市のほうに移管を受けましたものでございますので、この四十九年度の年間実績ということにつきましては、一応房州水道のほうから資料をもらったもので、これは過去一年間の私どもの推定量ということで計算いたしております。

それからもう一つは、一日最大給水量はどうしてきめるかというような問題でございますが、この私どもでいっています計画一日最大給水量というものは、水道施設の規模をきめる際に必要な

数字でございます。これは一日最大給水量を求めます場合には、その水道施設の計画給水人口に、計画一人一日最大給水量を乗じまして、この数値を求めていくわけでございます。

これは、水道施設で一般にその水道の安定した水量をみる場合は、一日平均給水量でみるわけですが、その水道施設がある一日時点で需要が相当ふえるという場合に、最大一日その時点で給水ができるというのが一日最大の給水量ということになるわけでございます。ですから、これは一日平均給水量と一日最大給水量とは数値が隔たりがあります。そういう関係でございます。

それからもう一つ、施設能力の点検でございますけれども、市の今までの水道につきましては一応計器類等もございまして、毎日これは運転して計量の上にそうした能力、給水量そうしたものが出てくるわけでございますが、ただこのうちで、南条の旧簡易水道これは小さな水道でございますけれども、これと中央水道につきましては、そうした施設について一部整理されないものがございますので、この点につきましては、はっきりと現在では能力がつかめない場合もございます。

○一五番（辻田 実君） それでは、再質問をいたしたいと思うわけでございます。

まず、第一点の公共料金の値上げの問題については、先ほど来の論議があるわけでございますので、今、御答弁のあったような方向でおおむね了解をいたしたいというふうに思います。

二番目の下水の問題でございますけれども、ただいま市長の答弁でございますと、公共下水道をつくる以外に方法はないというようなことといわれております。それまでの具体的な対策は

どうかということをしてるわけでございます。公共下水道をつくる以外に手はないということでございますけれども、公共下水道が着手してからどのぐらいかかるのか。それらについては御検討なさっておるのかどうなのか。

たとえば、先般、八戸をみてまいりましたけれども、大体十五、六年かかってようやく、器ができて上ってあるというふうな状況でございまして、これから館山の場合ですと、約二万坪以上の用地を確保し、それからいろいろとかかっていく。そういう工事だけでも少なくとも五年、六年かかるというふうな中であって、これができるということ wait しているならば、私は相当、十年から先かかるのではないかと。今の科学の時代でございますから、よほど手回しよくやっても七年、八年かかるのではないかと思われましますけれども、この点についてはそういうことなのか。

そういうことであって、具体的に現在市民または観光協会あらゆるものが海水をきれいにしよう。漁民の中ではこれ以上よこれではたまらぬ。私も毎年二、三回海に入ります。とにかくこの場所に入っても館山湾はぬるでございまして。ひどいものです。汐入川の川底なんていったら、もうどのぐらいヘドロがたまっているかわからないくらい。大雨が降ればそれがかき上げられて長時間にわたってもうものすごい状態で悪臭をはなつて館山湾に流れていくという状態でございます。これはどうしても北条地域を中心としたところの世帯が全部汚水を流すわけでございまして、これが全部館山湾に流れるわけでございます。どんな措置を講じてもらえないか。これに対してどうなのか。実際に下水をやるのには環境衛生の面だからということ、環境衛生の面だけでも

ってこれが解決できるものかどうか。そのうち、館山湾は腐ってしまうのではないかと。懸念されるわけでございましてこの点については、衛生的にはどの程度やるのか。私は今の予算では非常に少ないし、問題があるのじゃないか。

これは場合によれば、どぶのところどころにマンホールをついて、そこにある程度沈んでんさせて、うわ水を出して、マンホールにたまったところの汚泥をどっかに処理するというような形をとってあげれば、これによってかなりの館山湾に流れるところの汚水というのは、根本的な解決にはならないけれども、そういうようなこともある程度八年とか、十年先を考えた中ではそうした暫定措置も必要ではないかと思うわけでございますけれども、そういう点はないのか、どうなのか。この点についてお伺いしたい。

二番目に、下水問題でございしますけれども、先般、本間市長は道路舗装の四カ年計画というのをつくりまして、幅員三メートル以上の道路について約四億の金を使って全部これを舗装するということが相当の借金を残しましたけれども、やらなければならぬということと実行しました。

私は現在、館山の側溝これは下水に使うことはいいか、わるいかは別といたしまして、現実に使われておる。この側溝をやはり三カ年計画なり、四カ年計画の中であって、先般の道路の舗装計画のような形でもって、私は年次計画をもってやらなければならぬじゃないかというふうに思っているわけでございますけれども、そういう意向はあるのか、どうなのか。そういう選択はあるのか。行政というのは選択ということを考えておるそうでございますから、何を選択するのか。そうして施政方針においても

ありとあらゆる場所でもって、上下水道だけはまずやりたいという事でございますから、具体的にはそういう案なり、そういうものは考えられるのか、考えようとしておるのかどうか。この点について二点目としてお伺いしたいわけでございます。

それから、水問題でございしますけれども、これについてまず第一点お伺いしたいわけでございますけれども、今年の五十年年度の予算の中におきまして、水道の予算の二八七ページでございします。ここに年間の給水量が二百六十五万四千トンということが出ております。そうして、二八八ページの営業収益の中に一億一千百五十四千円というのが出ております。これはどういう基礎でもって計算されたのか。正確に御答弁いただきたい。

これを計算しますと、トン当たりの水の料金は四十一円八十四銭になります。間違いかどうか、これ確かめていただきたいと思ひます。

水道料金の一覧表をみますと、館山市の現在の水道料金、宮城水道、南条水道については一般用でもってトン当たり二十円、営業用でもって二十二円五十銭、さらに南部、西部、西岬の水道についてはトン当たり一般用でもって三十円、営業用でもって三十四円、中央水道におきましては一般用でもって三十七円、営業用でもって三十九円、官公庁用についてはこれの半額、超過料金についても宮城、南条については二十五円トン当たり、西部、南部、西岬については三十五円乃至四十円、中央水道について四十円でございます。ただし、営業用は四十二円。

この計算でいきますと、単純に計算いたしましたしても、館山市の水道料金というのはトン当たり三十円でございます。どうし

てここでもってトン当たりの計算が四十一円八十四銭という数字が出てこなければならぬのかということ。これは値上げを前提として予算化されたものなのかどうか。この数字がどうしても合わない。これをまず御答弁いただきたい。

それから、農業問題についてでございますけれども、これはいろいろと問題もあります。そうして市長がいろいろのものをいってくれましたから、その点については、私はそれを実行してもらえば相当館山の農業もかわるのだからということで、あと実行を待つのみでございまして、その点については期待を大きくするものでございます。

ただし、館山農協の問題については、どうしても農協の中にそれができたから、農協のそれに対して自主的な解決を望んでやまないということでございますけれども、私は館山の農協の問題というのは、そういう他人的の問題じゃないんじゃないか。

まず第一点は、先ほど申しましたように、館山農協については館山市が本当に肝いりでこの十数年間館山の農業は農協を育成していく中で、館山農協を育てようという市の根本政策があったということ、それに対して補助金を幾多も投げ込んできたということ。これの経過の上に立って、まず第一点は、あの五億五千万という金に対して、館山農協があの結果が出ることによってどうなるかということについて、その把握が少し足りないんじゃないか。と同時に、館山農協が館山の農業の中に占めるところのウェイトが非常に高い。これに対して館山市の農政という場合にどういう指導をなされておるのか。ちょっと感覚が遠過ぎるのではないか。そうして、あの五億の問題について、私は判決によってどうなる

かわかりませんけれども、それはかなりの予測は農協の幹部の中にも、職員の中においても相当きつい形の判決は免れないんじゃないかというものが持たれておる。

私は、何人かの弁護士の友人に聞いてみたところが、非常にむずかしい勝ち目の薄いものだということを専門的な立場からいってあります。しかし、これは裁判官の判決だからわからないけれども、どうしてもきついだろうという専門的な立場から私は聞いておる。そうした面についてちょっと距離が速くはないか。その面について今後物心両面にわたって農協に対するところの再建の方策が考えられるかどうか。その点について再度御質問したいわけでございます。

〇衛生課長（石井 謙君） 第一点目の環境衛生面から行なっております市内のおもな排水路の関係につきましてお答え申し上げます。

この点につきましては、私ども清掃計画に基づきまして市内のおもな排水路をまず直営か、あるいはまた請負か、そういう形でもって行なっておるわけでございます。

なお、二つ目としましては、主要な側溝につきましては高圧洗浄車によって清掃計画に基づきまして、これは実施しておるというところでございます。

それから最後に、いろんな不法投棄が現在でもまだ河川にあるわけでございます。こういうようなものにつきましては現在、監視員制度がございますが、この環境監視員の配置によりまして、一週間に二回程度そういうようなものを巡回させまして、そういうような不法投棄の防止にあたっておるわけでございます。

〇土木課長（飯田治男君）

第二点目の側溝の新設の件でございます。

すが、舗装四カ年計画のときにも、側溝につきましては一緒に整備してきたわけでございます。ただ、地形的な問題で勾配の取れないようなところは側溝がつけてございませんが、それからあと今後残っておる問題といたしましては、細い道に側溝をつけるという問題でございます。この点は、現在入れる車が側溝をつけたために入れないということになりますと、やはり汲み取り等の関係でなかなかむずかしい問題だと思っておりますので、今後もできるだけそういった点を考えながら、年次計画的に側溝の新設をしてまいりたい。

〇水道課長（大嶋重義君）

水道関係についてお答え申し上げます。

この営業収益の関係でございますが、この営業収益の一億一千百五十四千円の中には、水道料金のほかに量水器の使用料が入ったものでございます。したがって、この金額をこれで割りますという今御指摘のような四十一円なにがしかになろうかと思っております。

この水道料金以外には、量水器の使用料は上水道におきましては三百四十万計上しております。それから簡易水道におきましては五十八万計上いたしまして、計三百九十八万がこの中に入っております。

それから、これの出し方でございますけれども、これは値上げはこの中に予想して入れてございません。それで出し方ですが、前年度の一応実績等、それから今後の状況、見通し等をみて積算するわけでございますが、一応施設ごとに申し上げますというところの積算の基礎は、宮城におきましてはトン二十五円で三十一

万三千六百トンということで、これが七百八十四万でございます。それから南条水道は小さい額ですが、トン二十六円で千六百トン四十一万六千円、それから西岬水道がトン四十円で二十一万六千トンで八百六十四万円、それから中央水道がこれもトン四十円の計算で百六十七万九千トンということで、これが六千七百十六万円でございます。このほかに置水器の使用料が三百四十万でございます、ひっくりめまして上水道におきましては八千七百四十五万六千円でございます。

それから、簡易水道におきましては、これは二つ、南部と西部があるわけでございますが、これも先ほど申し上げましたような方法で積算いたしましたわけでございますが、トン四十円で二十一万九千トンを目まして八百七十六万円、それから西部が同じくトン四十円で二十一万七千七百トンで八百四十六万八千円という水道の料金、それからさらにここの置水器の使用料が五十八万円で、合わせまして千七百八十八万八千円、このような積算で計上いたしました。

○市長（半沢良一君） 農協の問題についての再質問にお答えいたしたいと思いますが、決して他人的な問題として考えているわけじゃございませんので、市民の多数の農家の方々が組合員でございまして、組合員の経済を預っております農協が、そのような不祥事を起こしたことはたいへん組合のために遺憾に考えておるわけでございます。

いずれにいたしましても、法廷で現在係争中でございますのでその結果が出ないと、やはり具体的な再建策というのはなかなかできないんじゃないかというふうに考えておりますが、また、市

といたしましては、法令上農協に対する監理、監督、指導といったような権限がないわけでございますので、具体的にはここでどういうふうな物心両面から援助をするというお話しでございますけれども、具体的に今、ここでその方策をとるといふわけにはいかないように考えておるわけでございます。

○一五番（辻田 実君） 側溝の問題等については前向きに考えるということでございますから、そういう点で了承したいと思えます。

それから、水の問題でございますから、先ほどは水資源の問題だというふうにお答えになったわけでございますけれども、水資源の問題にということになりますと、こういう数字はどういうふうになるかということについてお伺いしたいわけでございます。

この資料によりますと、今館山市でもって水を年間使っておるのは三百万トンということが出ております。約三百万トン。そうして給水世帯というのは八千世帯でございます。割りますと三百七十五トンになります。年間一世帯当たりのトン数が。それからこれを一月になおせば、十二で割るわけですから三十一トンでございます。月に三十一トン、一世帯当たりの平均が。それから一日当たりの平均が一世帯でもって一トンでございます。そうして一般的にいわれるところの一人当たりの水の使用量は一日当たり百リットルということがいわれております。四人世帯としても四百リットル、日に直しますと約十二トン、館山市のほとんどの水道の定額というのは八トン乃至十トンということになっておりますから、これが月ぎめということになっております。これで

いきますと、世帯当たり年間通して平均でもって、月一世帯当たりが三十トン使っているわけです。平均ですよ。夏も冬も。

そうして、この数字は、先ほど申したように、館山市の水道の能力これから申しますと、館山の最大能力というのは中央水道でもって六千トン一日当たり、それらを計算していきますと、一万千四百トンの能力があるということでございます。この能力が間違いないということになりますと、これを掛けますと、三百六十日掛けますと三百万、正確には四千トンという数字になります。大体館山市の水の消費量と同じになります。

と申しますことは、この施設能力がフル運転されて年間使われているという水の量のこの三百万トンと、実際使われている三百万と同等ということになります。となると、これだけの水が出ていくわけですから、館山の中において工業用水でもってどのぐらい出ておるのか。学校のプール等でもって使う水がどのぐらい出ているのか、これを差し引いても大体普通の家庭については十五トンから二十トンぐらい月にいっている。平均ですよ。使っているんですよ。現実的に。夏になればこの倍使うでしょう。冬と夏は各家庭半分違いますから、夏各家庭においては平均トン数の倍約五十トンぐらい平均世帯で使わないと、冬はずっと落っこちております。

最近のデーターでもって、三月、四月、五月ぐらいの間でもって月に何トン使うか。これが明らかになれば、それをひとつ出していただきたいと思う。大体何万トンぐらい使っているのか。把握しておれば出してもらいたい。

となると、私は水資源の問題じゃないんじゃないかと思う。こ

の水は確保されておるならば間に合はずです。数字的には。そう思いませんか。なぜ、それでもって夏になると水が出ないんですか。実際に館山市の八千世帯に対して三百万トンの水が実績として供給されているんですから、どこかで大きな狂いがない限りは余るはずですよ。水は作名ダムに依存しなくても数字的には合います。この数字は、この点はどうのように考えておるのか。御答弁いただきたいと思います。

水道課長(大嶋重義君) ただいまの御質問でございますが、この場合に、水道でさっき申し上げました計画一日最大給水量というの、それでもって年間ぶっ通しでいくという能力ではないわけでございます。この関係は非常にむずかしいわけですから、さっき申し上げました一日の平均給水量、これはその水道の経済能力をおさえる場合の安定した数値になるわけでございますがしかし水というのは一定して使いませんので、ある時点、時期によって増大するわけですから、そうした場合に、最大に耐え得るものかどうかというのが、一日に耐え得るものかどうかというのが、その最大が先ほどからお話しになっております一日最大給水量でございます。

ですから、安定した水量をおさえる場合には平均給水量でおさえるということになっているわけでございますが、最大一日給水量のついていますが、すぐそれが年間を通じて、それが給水施設の能力だというふうに考えられますと、ちょっとそのへんが違ってくるわけでございますが、一般には、ですからこの数字は公称能力、施設の能力ということでいわれているわけでございます。ですから、公称給水能力がすぐそのまま日数を掛けたものが水量

になるかという点、そうならない場合があるわけでございます。

しかし、実際には、その施設はさらにその能力を上回って給水する場合もあります。そういうことで、たとえば、夏等非常に給水が、需要が激しくて困る場合にはフル運転したりしますと、この能力以上に市の水道におきましては、西部、南部等におきましては、この能力以上に給水ができる場合がございます。

ですから、これにつきましては、私どもの違いはこういうふうに見測しているわけでございます。大きなのは夏場ですね。これが予想以外の大きな需要が増して、施設能力以上に需要が増して供給能力がそこでなくなるということで給水制限をしなければいけなくなる。こういうことがおもな原因でございます。

それからもう一つは、さっき御指摘になりましたように、施設能力が果してあるかどうか。こういう点も合わせてその原因の一つになろうかと思えます。

それから、今水不足の出る大きな原因は、やはり水資源の確保これが足りないということが一つと、施設能力が当初きめたものよりも現実には需要が増して、それに応じきれない。需要がふえてきたという点から、この需給の關係のアンバランスが出てくる。こういうふうに私もみております。

〇一五番（辻田 実君） それは、そういうことで伺えるわけでございませうけれども、この点について今いいましたとおりなんです。要するに、最大能力が一万千四百トンあるわけですよ。上水道の中において、これを三百六十倍した数字が三百万トンになるわけですよ。これはこれでいいんですよ。

そうすると、館山市で一年間使っておるところの、四十八年度

だけでもって、上水道だけでもって三百七万九千トンの年間給水をしているわけですよ。いいですか。そうすると、もう最大能力がフル運転して三百六十五日やったところの量が、水揚げ高が出ておるといふことです。なんで、三百万トンが出てくるかといふことです。

もう一つは、さっきの予算書の中にもそういう数字が出ておる。予算の中に二百六十万トン、三百万トンをちょっと割っておりまして、統計数字とは違いますが、フル運転されてい

るんです。もう一つは、計画水域というのは、この場合には、館山の場合には上水道の場合には三万九千五百人になっております。そうしますと、計画水量というものは法律でもって許可されるのはかなり多くの水を使っても、工業用水、学校、その他を使ってもこれだけの水が出ればだいじょうぶだというのが一つの法律基準というふうに思えます。

館山市の場合には、その最大能力一万千四百トンの水であれば法律的に許可されるよりも低いんです。いいですか、低いんです。その水の量が。そうしてなおかつ、やや合致しているわけです。ちょっと低いんですけれども、となると、これだけの能力があつて、その能力がフル運転されて、フル運転されているんですよ。法律にきめられた数字が、それでなおかつ水が出ないということはおかしいとは思いませんか。そうでしょう。ですから、水が机上のプランでしたら出ていますよ。水が机上のプランでもって出ていけば水は余ると思いますよ。一日一万千四百トンが使われているんですよ。一万千四百トン使わなければ年間三百万トンとい

う水はいらないですよ。三百万トンという実績があがっているですよ。どうしてあがるんですか。三百万トンの水があがれば館山の現在の八千世帯に対するところの給水というものは三万九千五百人、給水人口三万四千四百六十九人の水というのは余っちゃうはずなんです。法律的にいつても。それが余らないで、現実的には夏になると水が出なくなるといふことは、どっかに非常に異常な事態がある。数字的にどうしても合わない。これが解明されない、私は水道問題の根本にはならない。単に、さっき半沢市長が水が足りないという。足りないことは事実だ。しかし、帳面の上では余ってるんじゃないか。三百万トンの水があがっているですよ。料金も取ってるんですよ。それだけの水が余るんですよ。これの一つ……………。

○議長（吉田勇治郎君） 申し合わせ時間となりましたので、一五番議員君の質問を終わります。

以上で、通告者による一般質問を終わります。

散

会 午後五時二十二分散会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

次会は、七月四日午前十時開会といたします。その議事は各議案の内容審議といたします。

○本日の会議に付した事件
一、行政一般通告質問

